

**多賀城市教育委員会
点検・評価報告書**

(令和6年度事業)

令和8年3月

多賀城市教育委員会

目 次

I 多賀城市教育委員会の点検・評価

1 教育委員会の点検・評価	1
2 令和6年度の点検・評価実施内容	1

II 令和6年度の点検・評価

1 教育委員会	2
(1) 多賀城市教育委員会委員	2
(2) 教育委員会の開催状況	2
(3) 教育委員会の審議状況	3
(4) 研修会等出席状況	6
2 学識経験者の意見活用	7
3 多賀城市まちづくり報告書の点検・評価	11
(1) 評価結果の概要	11
(2) 多賀城市まちづくり報告書の構成	12
(3) 多賀城市まちづくり報告書とは	13
(4) 施策・基本事業評価の見方	14
(5) 施策・基本事業評価の動向	16
4 事務事業の点検・評価	28
(1) 評価結果の概要	28
(2) 令和6年度主要な施策一覧	29
(3) 事務事業評価表とは	30
(4) 「事務事業評価」と評価表の見方	31
(5) 点検・評価表（事務事業評価表）	32

III 学識経験者の意見

宮城県教育庁義務教育課

心のサポートアドバイザー 當麻 哲 氏	50
前多賀城市立山王小学校長 千葉 雅弘 氏	54

IV 資料

多賀城市教育基本方針・令和6年度教育重点目標	58
------------------------	----

I 多賀城市教育委員会の 点検・評価

I 多賀城市教育委員会の点検・評価

1 教育委員会の点検・評価

「地方教育行政の組織及び運営に関する法律」が平成19年6月に一部改正され、平成20年度から教育委員会が教育行政事務の管理及び執行状況について点検・評価を行い、その結果に関する報告書を作成し、議会に提出するとともに、公表することが義務付けられました。

このことから、前年度実施した事業のうち、主要な事業について点検・評価を実施し、教育行政に関する学識経験者の意見を付した報告書を取りまとめました。

なお、点検・評価は「第六次多賀城市総合計画」及び「多賀城市教育振興基本計画」の体系に沿って、実施しています。

■地方教育行政の組織及び運営に関する法律（抜粋）■

（教育に関する事務の管理及び執行の状況の点検及び評価等）

第26条 教育委員会は、毎年、その権限に属する事務（前条第1項の規定により教育長に委任された事務その他教育長の権限に属する事務（同条第4項の規定により事務局職員等に委任された事務を含む。）を含む。）の管理及び執行の状況について点検及び評価を行い、結果に関する報告書を作成し、これを議会に提出するとともに、公表しなければならない。

2 教育委員会は、前項の点検及び評価を行うに当たっては、教育に関し学識経験を有する者の知見の活用を図るものとする。

（平成27年4月1日施行）

2 令和6年度の点検・評価実施内容

(1) 教育委員会

令和6年度の開催状況及び審議状況並びに研修会等出席状況についてとりまとめ、点検・評価として実施しました。

(2) 学識経験者の意見活用

令和6年度に実施した点検・評価においては、学識経験者2名の方から意見をいただきました。この意見を受け、令和7年3月時点における各事務事業の検証を実施し、業務改善に活用しました。

(3) 多賀城市まちづくり報告書の点検・評価

教育分野の施策及び基本事業における成果指標の推移を踏まえた成果状況等について、点検・評価を実施しました。

(4) 事務事業の点検・評価

令和6年度に実施した事業のうち、主要事業17事業について点検・評価を実施しました。

II 令和6年度の点検・評価

1 教育委員会

(1) 多賀城市教育委員会委員

教育委員会は、教育長及び4名の教育委員による合議制の執行機関です。

(令和6年度末現在)

職名	氏名	備考
教育長	麻生川 敦	令和4年10月1日再任
教育長職務代理者	小野 聡子	令和3年10月1日新任
教育委員	高田 彩	令和4年10月1日新任
	大井 知教	令和5年10月1日新任
	星山 純一郎	令和7年1月1日新任

(2) 教育委員会の開催状況

令和6年度は、定例会及び臨時会を計15回開催しました。

	会議名	開催年月日	審議等件数
1	令和6年第4回定例会	令和6年4月24日	6件
2	令和6年第5回定例会	令和6年5月22日	3件
3	令和6年第6回定例会	令和6年6月27日	5件
4	令和6年第2回臨時会	令和6年7月3日	1件
5	令和6年第7回定例会	令和6年7月24日	2件
6	令和6年第8回定例会	令和6年8月28日	1件
7	令和6年第9回定例会	令和6年9月25日	1件
8	令和6年第10回定例会	令和6年10月23日	2件
9	令和6年第11回定例会	令和6年11月27日	1件
10	令和6年第12回定例会	令和6年12月25日	4件
11	令和7年第1回臨時会	令和7年1月6日	1件
12	令和7年第1回定例会	令和7年1月26日	4件
13	令和7年第2回臨時会	令和7年2月12日	1件
14	令和7年第2回定例会	令和7年2月26日	4件
15	令和7年第3回定例会	令和7年3月19日	4件

(3) 教育委員会の審議状況

令和6年度は、議案22件、臨時代理事務報告16件、報告2件、計40件を審議しました。

会議名	審議内容
令和6年 第4回定例会	<ul style="list-style-type: none"> ・臨時代理事務報告第5号 多賀城市いじめ問題専門委員会委員の人事について
	<ul style="list-style-type: none"> ・臨時代理事務報告第6号 多賀城市学校給食センター運営審議会委員の人事について
	<ul style="list-style-type: none"> ・臨時代理事務報告第7号 多賀城市社会教育委員の人事について
	<ul style="list-style-type: none"> ・臨時代理事務報告第8号 多賀城市立図書館運営審議会委員の人事について
	<ul style="list-style-type: none"> ・臨時代理事務報告第9号 多賀城市スポーツ推進審議会委員の人事について
	<ul style="list-style-type: none"> ・議案第7号 多賀城市いじめ問題専門委員会委員の人事について
令和6年 第5回定例会	<ul style="list-style-type: none"> ・議案第8号 多賀城市社会教育委員の人事について
	<ul style="list-style-type: none"> ・議案第9号 多賀城市立図書館運営審議会委員の人事について
	<ul style="list-style-type: none"> ・議案第10号 多賀城市スポーツ推進審議会委員の人事について
令和6年 第6回定例会	<ul style="list-style-type: none"> ・臨時代理事務報告第10号 臨時代理の報告について（令和6年度多賀城市一般会計補正予算（第2号）に対する意見）
	<ul style="list-style-type: none"> ・臨時代理事務報告第11号 臨時代理の報告について（議会の議決を経るべき事件の議案の作成に係る意見について（工事請負契約の締結））
	<ul style="list-style-type: none"> ・議案第11号 多賀城市学校給食センター運営審議会委員の人事について
	<ul style="list-style-type: none"> ・議案第12号 多賀城市文化財保護委員会委員の人事について

	<ul style="list-style-type: none"> ・ 議案第 1 3 号 令和 7 年度多賀城市立小・中学校使用教科用図書の採択基準について
令和 6 年 第 2 回臨時会	<ul style="list-style-type: none"> ・ 議案第 1 4 号 令和 7 年度使用教科用図書の採択について
令和 6 年 第 7 回定例会	<ul style="list-style-type: none"> ・ 議案第 1 5 号 令和 7 年度使用教科用図書の採択について
	<ul style="list-style-type: none"> ・ 議案第 1 6 号 指定管理者の候補者の選定方法について
令和 6 年 第 8 回定例会	<ul style="list-style-type: none"> ・ 臨時代理事務報告第 1 2 号 臨時代理の報告について（議会の議決を経るべき事件の議案の作成に係る意見について（工事請負変更契約））
令和 6 年 第 9 回定例会	<ul style="list-style-type: none"> ・ 臨時代理事務報告第 1 3 号 臨時代理の報告について（令和 6 年度多賀城市一般会計補正予算（第 4 号）に対する意見）
令和 6 年 第 10 回定例会	<ul style="list-style-type: none"> ・ 報告第 1 号 令和 5 年度多賀城市一般会計決算の概要について
	<ul style="list-style-type: none"> ・ 議案第 1 7 号 指定管理者の候補者について（市立図書館）
令和 6 年 第 11 回定例会	<ul style="list-style-type: none"> ・ 臨時代理事務報告第 1 4 号 臨時代理の報告について（議会の議決を経るべき事件の議案の作成に係る意見について（専決処分の報告、指定管理者の指定、工事請負変更契約の締結））
令和 6 年 第 12 回定例会	<ul style="list-style-type: none"> ・ 臨時代理報告第 1 5 号 臨時代理の報告について（令和 6 年度多賀城市一般会計補正予算（第 6 号）に対する意見）
	<ul style="list-style-type: none"> ・ 臨時代理報告第 1 6 号 臨時代理の報告について（令和 6 年度多賀城市一般会計補正予算（第 7 号）に対する意見）
	<ul style="list-style-type: none"> ・ 議案第 1 8 号 多賀城市指定文化財の指定の解除について
	<ul style="list-style-type: none"> ・ 議案第 1 9 号 令和 6 年度多賀城市教育功績者等表彰について

令和7年 第1回臨時会	<ul style="list-style-type: none"> 報告第1号 教育長職務代理者の指名について
令和7年 第1回定例会	<ul style="list-style-type: none"> 臨時代理事務報告第1号 臨時代理の報告について（令和4年度特別史跡多賀城南門周辺地形修復・築地塀復元工事）
	<ul style="list-style-type: none"> 臨時代理事務報告第2号 臨時代理の報告について（多賀城跡ガイダンス施設条例）
	<ul style="list-style-type: none"> 議案第1号 令和4年度多賀城市教育委員会点検及び評価の結果に関する報告書について
	<ul style="list-style-type: none"> 議案第2号 学校給食費の改定について
令和7年 第2回臨時会	<ul style="list-style-type: none"> 議案第3号 県費負担教職員の任免等の内申について
令和7年 第2回定例会	<ul style="list-style-type: none"> 臨時代理事務報告第3号 臨時代理の報告について（令和6年度多賀城市一般会計補正予算（第8号）に対する意見）
	<ul style="list-style-type: none"> 臨時代理事務報告第4号 臨時代理の報告について（令和7年度多賀城市一般会計予算に対する意見）
	<ul style="list-style-type: none"> 議案第4号 令和7年度多賀城市教育基本方針及び教育重点目標について
	<ul style="list-style-type: none"> 議案第5号 令和6年度多賀城市教育功績者等表彰（追加）について
令和7年 第3回定例会	<ul style="list-style-type: none"> 議案第6号 職員の人事について
	<ul style="list-style-type: none"> 議案第7号 多賀城跡ガイダンス施設条例施行規則について
	<ul style="list-style-type: none"> 議案第8号 多賀城市教育委員会規則の一部を改正する規則について
	<ul style="list-style-type: none"> 議案第9号 多賀城市教育委員会事務決裁規程の一部を改正する訓令について

(4) 研修会等出席状況

令和6年度は、教育長、委員が5回の研修会等に参加しました。

月 日	研 修 会 等 名 称	開催地
令和6年 4月18日	東北都市教育長協議会総会・研修会	大崎市
令和6年 4月22日	宮城県都市教育長協議会総会・研修会	仙台市
令和6年 6月6日	仙台管内教育委員会協議会総会・研修会	多賀城市
令和6年 8月2日	市町村教育委員会研究協議会	仙台市
令和7年 1月21日	宮城県市町村教育委員・教育長研修会	仙台市

2 学識経験者の意見活用

令和6年度に報告した「令和5年度点検・評価報告書」において、学識経験者2名の方からいただいた意見を受け、本市教育委員会は各事務事業を検証し、今回の業務改善に活用しました。

令和5年度多賀城市教育委員会点検・評価報告時の学識経験者

元多賀城市立高崎中学校長 横橋 健 氏

元多賀城市立山王小学校長 當麻 哲 氏

政策3 歴史・文化を継承し豊かな心を育むまち

施策1 学校・家庭・地域の連携による教育力の向上

学識経験者の意見	検証（現状、今後の方針）
<p>「地域学校共同活動実施回数」が順調に増加し、令和5年度には令和3年度のほぼ4.5倍になっているのは大変素晴らしいと思う。地域のボランティアが学校に関わることで児童生徒へのきめ細かな指導が期待でき、地域の方を児童生徒が知ることで、児童生徒が地域の活動に参加しようとする心を育て、子どもたちの学びを支える地域社会が形成されてきていると感じている。しかしながら、市民アンケートの結果を見ると、このような取り組みが多く市民に知られていないのではないかと感じる。今後この取り組みの市民への啓発が求められる。</p> <p>知識や経験を地域住民から学ぶことができている児童生徒の割合という評価であるが、緩やかにではあるが上昇してきていると思われる。特に小学生では、基準値に達しており、今後さらに上昇していくことが期待できる。また、中学生でも今後基準値をクリアすることが期待できる。</p> <p>少子高齢化や核家族化の進行により地域社会のつながりの希薄化や、社会規範や社会的マナー、道徳心など地域で子どもを育むべき地域教育力の低下が危惧されている。また、児童虐待や貧困といった家庭環境の問題、学校ではいじめや不登校をはじめとして、抱える課題も複雑化・多様化している。このような現状を踏まえて、学校・家庭・地域の連携・協働の強化を図り、社会全体で子どもを守り育てる環境をつくり、教育力を向上させていくことはとても重要な施策であると考えられる。</p> <p>令和5年度のまちづくり報告書の結果では、学校・家庭・地域の連携による教育力向上については市民の評価は下がっている。新型コロナウイルス感染症拡大の影響により、取組の停滞が長期化した影響から向上に至っていないとされているが、地域学校協働活動をはじめ、学校支援活動や地域教育力向上事業等を計画的に進めてきており、引き続き目標が達成できるよう事業を推進していくことを期待したい。また、児童生徒は、教育連携事業を学校だけでは得られない知識や経験を地域住民から学ぶことができていると評価しており、着実に子どもたちの学びにつながっていると考えられる。</p> <p>青少年育成活動事業として、小学校の空き教室などを活用して子どもに体験の場を提供する「放課後子ども教室」や、授業などを支援する「学校支援活動」を増やしたことで参加人数が大幅に増加していることは喜ばしいことである。</p> <p>今後は、学校を核とした地域づくりを支援する「地域学校協働本部」と学校運営に地域の声を積極的に生かし、地域と共にある学校づくりを進める「学校運営協議会」が両輪となって、学校と地域との連携・協働を推進していくことを期待したい。</p>	<p>本市では、学校・家庭・地域の連携による教育力の向上への取組として、地域学校協働本部を中心として、放課後子ども教室、学校支援活動、防災キャンプ、家庭教育支援といった協働教育の事業を実施しています。</p> <p>放課後子ども教室では市内小学校全校で児童の安全・安心な居場所づくりを、学校支援では地域住民が学校教育に参画して共に児童・生徒を育てる取組を、防災キャンプでは児童を対象として宿泊を伴う防災学習を行っており、これらの事業を、地域住民・地元企業・高校生等を加えて推進することで、児童生徒が多かった学びを得ることができる学校・家庭・地域が一体となった教育の実現に向けた事業を行っています。</p> <p>令和6年度は、市内全校に学校運営協議会を設置しました。</p> <p>御意見としていただいた「市民アンケートの結果から、地域学校協働活動の取組が多く市民に知られていないため、今後、啓発が求められる。」ことについては、学校運営協議会において、地域住民の意見を学校運営に取り入れることに加えて、学校の活動を広く地域に認知してもらう仕組みを構築することができたため、地域学校協働活動の啓発を、引き続き推進していきたいと考えています。</p> <p>また、「地域教育力の低下、児童生徒が抱える課題の複雑化・多様化に対して、社会全体で子どもを守り育てる環境をつくり、教育力を向上させていくことは重要な施策である。」という御意見については、多様な主体が教育に参画することで、子どもが抱える課題に様々な角度からアプローチしていく仕組みを推進していきたいと考えています。</p>

施策2 学校教育の充実

学識経験者の意見	検証（現状、今後の方針）
<p>「学校が楽しいと感じる児童生徒の割合」と「授業がわかると答える児童生徒の割合」が見事に相関している。学校生活のほとんどの時間を占める授業において、達成感を持ち、わかったと感じることが学校生活の中で大変重要である事がわかる。授業のICT化により「個の学び」と「グループ活動」とが効果的に行われることができ、以前とは違った学びが創造できる可能性がある。学校と授業のICT化に専門業者の活用と教職員の育成を導入しているのは大変素晴らしい。</p> <p>一方、不登校児童生徒の出現率は増加している。不登校の要因には様々なものが考えられ、なかなか未然に防止するのは難しい。しかしながら、多賀城市ではSCやSSWの活用、支援教室や心のケアハウスなど様々な手立てで支援しており、令和5年度には、4割近くの不登校の児童生徒が再登校している。不登校の未然防止のためにSCやSSWの活用、さらに不登校になっても様々な支援があることを保護者に知らせ、できるだけ早い時期に相談をすることの大切さと積極的に相談するような体制を構築していただきたい。</p> <p>学校ICT整備事業が着実に進められ、児童生徒一人1台のタブレット端末を活用して学習できるようになったことは、分かる授業・充実した授業が展開され、情報活用能力を身に付け、学習意欲を高めるとともに学力の向上につながるものと期待したい。そのためにも、市内すべての学校で積極的にICTを活用して、学校間格差が出ないようにしてほしい。端末を有効活用して充実した授業が展開できるようにするためには、指導者の育成や教職員の指導力向上に向けた研修を充実させることは必要不可欠である。その対策として、専門知識を有する教職員を育成していることやICT支援員を各校に配置していることは大変有効である。</p> <p>「学校が楽しい」と答えた児童・生徒が、87%と高い割合であることは喜ばしいことだが、勉強が難しいと感じている割合は学年が上がるに従い増える傾向にあることは課題である。どうしても一斉指導の授業だけでは理解できずにつまづいたままの児童生徒が出てきてしまう。文部科学省の指針や宮城県県の教育の重点では、「個別最適な学び」と「協働的な学び」を一体的に取り入れて充実させていくが今後、実現すべき学びと示している。ICTを効果的に活用しながら児童生徒一人一人が主体的・対話的で深い学びとなるような授業改善を進めてほしい。</p> <p>市内小中学校の不登校の割合は増加傾向にある。学校生活や家庭生活での悩みや不安、スマホ・ゲーム依存、他にもさまざまな要因が考えられるが、学校内における児童生徒への相談支援の充実と学校・家庭・関係機関とが連携して「どこにいても誰かとつながっている」教育相談体制の充実を図っていくことが必要と考える。心のケア事業として、学び支援教室、スクールソーシャルワーカー、スクールカウンセラー、子ども心のケアハウス等が密接に連携して支援対策を施してきたことで、再登校率は上がってきていることは個々への丁寧な対応が成果として表れているものと評価できる。いじめや問題行動についても、未然防止と早期対応に向けた教育相談体制を充実し、学校・家庭・関係機関が連携して、いじめ防止に協働で取り組んでほしい。</p>	<p>学校ICT整備事業については、端末を活用した学習時間も年々増加していることから、NextGIGAに向けた環境整備を計画的に推進します。また、教職員のICTを活用した指導力向上を図るため、ICT支援員の継続配置や研修を充実させ、学校間格差のない環境づくりを進めてまいります。</p> <p>本市では、県指定の「学び支援教育等支援事業」を受け、学校内に別室を設置しています。教室に入ることができない児童生徒の居場所として、市内の小中学校・中学校それぞれ2校に配置しています。別室には専任教員を配置し、居場所としての機能に加え、学習支援の充実も図っています。</p> <p>また、いつでも、どこでも学習支援を受けられる体制を整えるため、令和6年度から「manaco（マナコ）」と連携しております。教員免許取得予定の大学生が、オンラインによる学習支援のほか、日常的な悩みや困りごとに関する相談対応を行うこととしています。</p> <p>このほか、本年度当初には、保護者や児童生徒のニーズに応じた支援や相談を受けられるよう、相談先を一覧にまとめたリーフレットを作成し、市内全児童生徒の保護者に配布しました。こうした相談窓口の周知を進めることで、年々ケアハウスの利用者は増加しています。</p> <p>専門指導員は、市内の全小・中学校を定期的に訪問し、不登校のみならず、発達面や生徒指導上の課題を抱える児童生徒の状況を把握しています。その中で、ケアハウスと連携し、アウトリーチ支援による課題解決が見込まれる児童生徒については、事業者と積極的に情報共有を行っています。</p> <p>また、必要に応じて、市が任用しているスクールソーシャルワーカーをケアハウスに派遣し、利用している児童生徒への自立支援の在り方や、保護者への相談支援に関する専門的な助言を行う機会を設けています。</p> <p>さらに、宮城県から配置されているスクールカウンセラーについても、配置期間に限られています。児童生徒や保護者に加え、事業者スタッフも相談できる体制となっています。</p>

施策3 生涯学習の推進向上

学識経験者の意見	検証（現状、今後の方針）
<p>学習機会に満足している市民の割合が9割近い。これまで感染に気をつけながらも講座等を開設してきたことが実を結んだと思われる。</p> <p>文化センターの改修工事が終了し、様々な文化芸術のイベントが開催されたことにより、文化芸術の直接鑑賞をしている市民の割合がコロナ以前より大きく増えている。今後ますます向上していくことが期待される。</p> <p>一方、生涯学習施設を利用している方がやや減少しているが、一部施設が4ヶ月閉館したことを考慮すると、約8ヶ月での評価とも考えられる。次年度以降、より向上していくことが期待されるのではないかと。</p> <p>昨年に引き続き、市民図書館の市民への貸し出し数が減少してきていることに対する取り組みに期待したい。</p>	<p>令和6年度の文化センター（市民会館）については、新型コロナウイルス感染症の影響がほとんどなくなったことや、多賀城創建1300年事業等の催事が多く開催されたことで、市内外や県外からも多くの方においていただき、直接文化芸術に触れる機会が増えました。</p> <p>また、令和5年7月までの大規模改修等により利用離れが起きていましたが、指定管理者による新規利用者獲得に向けた企業や団体へのアプローチが功を奏し、市民会館主催事業数も増加となり、館全体の利用者数は回復傾向となりました。</p> <p>市内3館の公民館では、各公民館ともに令和6年度は前年度と比較して主催事業を増やしたことで参加人数も増加しました。</p> <p>現在は、インターネット利用も含め、生涯学習の機会が提供される環境が整ってきており自宅での学習も可能になっていますが、公民館ならではの地域性や、地域に根差した特性を生かして市民団体や地域の方と連携しながら学びの場や機会の提供を行い、引き続き魅力ある事業を展開していきます。</p> <p>市立図書館では、生後3か月の乳幼児と保護者が対象となる「ブックスタート事業」や子どもを対象とした「おはなし会」、成人を対象とした「本のソムリエ」など数多くの事業を実施しており、全世代が本に親しみを持ち、触れ合うことができるような読書環境の充実につなげていますが、令和4年度以降図書貸出し数は毎年微減となっているため、今後も継続して魅力ある事業を提供することで図書館に足を運ぶきっかけをつくり、図書の貸出へとつなげていきます。</p>
<p>新型コロナウイルス感染症の影響もほとんどなくなり、公民館などでの講座や教室、サークル活動のほかインターネットなど多様な方法で学ぶことができる環境が整ってきたこと、さらに、文化芸術活動の機会が増加したことにより、利用者が増加に転じたことは大変喜ばしいことである。また、文化センターの大規模改修工事が終了したことにより、文化芸術に関するイベントなどが多く開催されるようになったことで利用者が増えてきた。今後も、市民の誇りの拠り所であるとともに多賀城らしい魅力の発進拠点としてさまざまなイベントの開催を期待したい。</p> <p>生涯学習を推進していくために魅力的な事業を展開し、学び続けることのできる機会の場、文化芸術の振興の場として、市民へのサービス向上を目指して事業を進めてほしい。</p>	

施策4 市民スポーツ社会の推進の向上

学識経験者の意見	検証（現状、今後の方針）
<p>スポーツの機会に満足している市民の割合が80%以上で、スポーツ等の教室・大会の参加者数が基準年のおおよそ1.7倍と大きく伸びている。新型コロナウイルスの感染が拡大していたころには個人で取り組む運動に取り組む市民が増え、それが一段落した現在、チームで行うスポーツへの参加が増えていると考えられる。大会等も活発に開催されるようになったことが窺える。</p> <p>しかしながら、施設の利用者の人数が思うように伸びていない。ひとつの要因としては、体育施設の老朽化もあるのではないかとと思われる。他の市町の新しい体育館に比べ、古く、暗い印象を持ってしまふ。改修の時期に来ていると思われ、市民の声を聞きながら計画を立てていただきたい。</p>	<p>本市では、社会体育施設を特定非営利活動法人多賀城市民スポーツクラブが指定管理制度によって管理し、スポーツ推進や健康増進などに向けた社会体育事業を実施しています。</p> <p>令和6年度は、社会体育事業において、多賀城創建1300年を記念してスイーツウォーキングで参加定員数を増加させたほか、トレンドを取り入れたパルクール競技を新たに実施し、市民がスポーツを楽しむ機会の創出に努めました。</p> <p>一方、コロナ禍により、野球やサッカーといったチームスポーツに親しむ市民が減少するなど、スポーツのあり方は変化しています。</p> <p>文部科学省では、スポーツ立国戦略のなかで「人（する人、観る人、支える（育てる）人）の重視」「連携・協働の推進」を基本的な考え方としており、スポーツに対する様々なニーズへの対応、スポーツを媒体とした民間事業者等との連携協働を行うことにより、市民が広くスポーツに親しむことができる環境の推進を図ります。</p> <p>御意見としていただいた「体育施設の老朽化」については、本市の中央部に総合体育館、市民プール、学校プールの機能を持つ施設を移転合築する方向性が示されたので、市民の声を聞きながら、愛される体育施設の実現に向けた検討を進めていきます。</p>
<p>新型コロナウイルス感染症が5類感染症に移行したことに伴い、ウォーキングやランニングなど個人で運動を行う人やスポーツ施設で集団での運動する人が増えてきている。また、社会体育事業やスポーツ団体の活動が活発に開催されるようになり、市民の参加する機会が増えたことで参加者が大幅に増加している。市民がスポーツに親しむことができる環境を提供することは、心身の健康の保持・増進を促し、生涯に渡ってスポーツに親しみ、人と人との交流にもつながることである。今後も多様なスポーツ事業を展開するなどして施設の利用促進を図ってほしい。</p>	

施策5 文化財の保護と活用

学識経験者の意見	検証（現状、今後の方針）
<p>多賀城市にとって、多賀城の歴史と文化財は大変貴重な遺産である。その保護と継承には大きな責任を伴っており、市教委の文化財課を中心とした取り組みには敬意を表したい。</p> <p>多賀城跡復元事業の進捗に伴い市民の多賀城への関心の高まりが市の歴史、文化を身近に感じている市民の割合が大きく向上している。また、多賀城創建1300年に向けた企画展の開催などの取り組みが行われ、順調であることは喜ばしいことである。令和6年度の南門の完成と多賀城創建1300年にかかるイベントに期待したい。</p>	<p>多賀城の歴史・文化財は、令和6年3月の多賀城碑国宝指定と市内遺跡出土文字資料の重要文化財指定の答申や、令和6年度に多賀城創建1300年を迎えることを機に、市民の関心が着実に高まっており、地域の歴史・文化を身近に感じる市民が増加している。埋蔵文化財調査センターでは、この機を捉え、多賀城碑の国宝指定を記念した展示及び講演会や、「重要文化財指定の文字たち—多賀城関連遺跡群出土漆紙文書・木簡—」と題した速報展のほか、令和3年度から実施している多賀城創建1300年に向けた連続企画の集大成となる第4弾企画展「古代都市多賀城」を開催し、前年度比約1.4倍となる多くの方に足を運んでいただいた。</p> <p>今後はこの盛り上がりが一過性で終わることのないよう、各展示会や体験イベントを通して多賀城市の歴史や文化をより多くの市民に知っていただき、悠久の浪漫を身近に感じられるよう取り組んでいきたい。</p>
<p>市民アンケートの結果から市の歴史と文化を身近に感じていると高く評価されている。これは、特別史跡多賀城跡復元整備事業が順調に進めてきていることと、広報活動や普及啓発活動も積極的に行われているからではないかと考える。現在、復元された南門を含め特別史跡周辺一帯を多賀城跡として事業計画に沿って整備し、令和6年には、多賀城創建1300年で記念式典、並びに復元した南門を一般公開まで計画的に進めていることはすばらしいことである。今後は、復元した南門を含めた特別史跡周辺の整備と一体となった活用策を検討し、より多くの方々に多賀城のすばらしさを知っていただくとともに歴史を活かした多賀城のまちづくりにつなげていくことを期待したい。</p> <p>今後も多賀城の歴史・文化・まちについて学ぶ機会を増やし、市の文化財を次世代に継承していくことの大切さを市民に理解していただくような取り組みや、郷土愛を育む教育をさらに推進してほしい。</p>	<p>南門を含めた特別史跡周辺一帯の整備を、令和6年11月に多賀城創建1300年記念式典、令和7年4月には一般公開に向けて進めている。令和元年の現地工事着手依頼、長年の取組が順調に形となって表れつつあり、市民をはじめ来訪者からも大きな期待を寄せられている。</p> <p>また、特別史跡の整備進展は、教育面においても本市固有の歴史・文化を学び、多賀城を語れることのできる児童生徒の育成を目指す本市にあっては、文化財の継承や郷土愛に結び付ける教育活動の一助となるものと考えている。今後は歴史的景観の保全と来訪者の利便性向上を図り、整備済区域と活用施策を有機的に結び付け、歴史の魅力を体験的に理解できる仕組みづくりを進めていく。また、多賀城創建1300年事業で高まっている機運を継続・発展させるため、広報やイベントを展開し、文化観光の活性化につなげていく。加えて、学校教育や社会教育を通じ、本市固有の歴史・文化について学ぶ機会をさらに充実させ、文化財を次世代に継承していく重要性について、市民が主体的に関わることができる講座や体験活動などを拡充し、郷土愛を育む取り組みを一層推進する。今後は、整備・活用・教育・広報を有機的に展開し、多賀城の価値をより多くの人々に届けるとともに、市民と協力し歴史文化の継承に取り組む体制を強化していきたい。</p>

総括的意見

学識経験者の意見	検証（現状、今後の方針）
<p>令和5年の多賀城市の取り組みは、どの分野においても、例年にも増して良かったように思われる。一つ一つの施策が充実しており、市民の方々もコロナ以前のような活動に戻りつつあるように思われる。次年度以降も継続して取り組んでいただきたい。</p> <p>また、多賀城創建1300年に向けての取り組みも順調に進んでいるようで喜ばしい。これを契機に宮城県内外への広報活動を通して、多賀城へのたくさんの方からの関心が集まることが期待される。その関心を一時的なものではなく、長く続いていくようなものに発展できるような企画に期待したい。</p> <p>また、学校の教員の働き方も以前は朝早くから夜遅くまで勤務しているのが常態であった。現在も小中学校の教員の負担が大きいのは論を待たず、全国的な課題になっている。多賀城市でもこれらの課題に何とか対応していくことが求められる。</p>	<p>多賀城創建1300年に向けた機運が高まっています。震災復興のシンボルである多賀城南門等復元整備事業及び周辺整備事業については、多賀城創建1300年、令和6年度の事業完了に向け、南門と一体的に整備する築地塙等の工事を進めるとともにガイダンス施設の建設に取り組んでまいります。</p> <p>また、GIGAスクール構想に基づく次世代教育を見据えた本市独自の計画を策定に着手し、単なるネットワークの整備に留まらず教育活動の質を向上させるためのICT活用と胸襟の働き方改革を通じた教育環境の最適化を図ります。</p>
<p>令和5年度も、教育文化の5つの施策について、前年度までの評価結果を踏まえて事業計画に沿って着実に事業展開いただいたことに感謝するとともに敬意を表したい。これまでは、新型コロナウイルス感染症拡大が事業の進捗に大きく影響していたが、今後は、各施策についてさまざまな視点から総合的に捉えて評価し、各施策の目指す姿（目標）が達成できるようさらなる事業の推進に期待したい。</p>	<p>コロナの影響で十分な活動ができなかった事業も通常に戻っております。</p> <p>目まぐるしく変化する教育環境を取り巻く社会の動向等を踏まえ、第2期教育振興計画に掲げる施策の実現に向け事業を推進してまいります。</p>

3 多賀城市まちづくり報告書の点検・評価

教育委員会における施策及び基本事業の「目標達成度」について、点検・評価を行いました。

(1) 評価結果の概要

施策	件数	基本事業	件数
達成	2件	達成	9件
高	0件	高	0件
中	4件	中	12件
低	0件	低	0件
合計	6件	合計	21件

※1 目標値を設定していない下記2件の基本事業は、除いています。

施策02－基本事業02「再登校率」

施策05－基本事業01「適正に調査・保護された文化財の件数」

(2) 多賀城市まちづくり報告書の構成

IV 多賀城市まちづくり報告書(第六次多賀城市総合計画進捗状況報告)

1 多賀城市まちづくり報告書(第六次多賀城市総合計画進捗状況報告)とは

(1) 施策別評価の概要

2 全体の動向

- (1) 将来都市像指標のうごき
- (2) 指標全体のうごき(施策・基本事業別)
- (3) 政策別の指標全体のうごき(施策・基本事業合計)
- (4) 指標全体の目標達成度(施策・基本事業別)
- (5) 政策別の指標全体の目標達成度(施策・基本事業合計)

3 施策・基本事業の動向(成果指標等一覧)

(1) 施策・基本事業評価の見方

- 政策1 みんなの力で減災 安全で安心に暮らせるまちづくり(安全安心)
- 政策2 健やかで優しい 支え合いのあるまちづくり(健康福祉)
- 政策3 夢と希望が輝く 誰もが成長できるまちづくり(教育文化)
- 政策4 都市と自然の環境調和 快適で潤いのあるまちづくり(生活環境)
- 政策5 地域の資源と知恵をいかす 活気あふれるまちづくり(産業活気)
- 政策6 地域の未来を共に創る 絆と誇りを築くまちづくり(地域創生)
- 政策7 縮減社会への対応 持続可能な行財政経営(行財政経営)

(参考)多賀城市まちづくりアンケート調査結果<令和5年度実施>

Ⅳ 多賀城市まちづくり報告書(第六次多賀城市総合計画進捗状況報告)

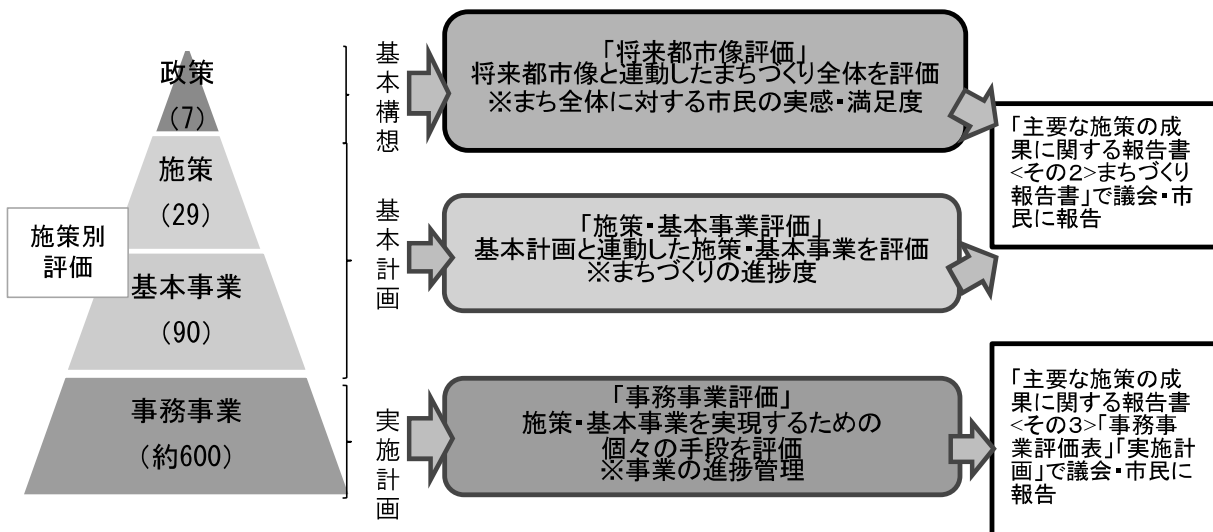
1 多賀城市まちづくり報告書(第六次多賀城市総合計画進捗状況報告)とは

多賀城市まちづくり報告書は、総合計画の目指すまちの姿の実現に向けて、まちづくりがどの程度進んでいるのか、事業の成果は上がっているのかといったことを示すため、令和6年度の決算を踏まえて、まちづくりの成果報告書として作成しています。

施策、基本事業における成果指標の推移を踏まえた成果状況等の結果を「施策別評価」として示すことで、総合計画の進捗状況等を明らかにしています。

また、複数年での指標の推移を確認することにより、指標のうごきが外的要因による突発的なものなのか、社会情勢の変化等による必然的なものなのかを見る目安となり、限られた行財政経営資源の「選択と集中」及び行政活動の「改革と改善」への活用が期待されます。

一般的には、事務事業の成果が向上することで基本事業の成果が向上し、基本事業の成果が向上することで施策の成果が向上する仕組みになっています。



(1) 施策別評価の概要

① 施策別評価とは

施策別評価は、階層分けした施策及び基本事業について、指標の推移を踏まえた成果状況やその原因分析等の評価結果を施策ごとに示すものであり、これにより総合計画の進捗状況等を明らかにするとともに、その評価結果を次の施策や事業展開に活かしていくこととしています。

施策や基本事業に対して、その目的がどの程度達成されたのかを測るものさしとして「指標」を設定し、成果状況を数値で表すことで、総合計画の進捗状況や事業の成果状況を客観的に把握し、分析していくこととしています。

② 指標のうごきからみるまちづくりの状況

施策・基本事業の指標の動向を前期基準値に対する「指標のうごき」で捉えるとともに、指標の令和7年度前期目標値に対する「目標達成度」を捉えることとし、これらをもとに総合計画の進捗状況を示しています。

3 施策・基本事業の動向(成果指標等一覧)

(1) 施策・基本事業評価の見方

政策 01 みんなの力で減災 安全で安心に暮らせるまちづくり

施策 01 防災・減災対策の推進

施策の成果状況は、左側のページとなるよう調整しています。

施策の目指す姿

大規模災害の経験をいかし、みんなの力で災害に強いまちが形成されることで、安全・安心に暮らすことができています。

【指標の区分】

目指す姿の実現具合を測るものさしとして設定している指標は、その特性により次の3つに区分しています。

成果: 目指す姿の達成度を示すもの

社会: 事業状況を指標化したものの、行政の関与よりも社会経済情勢等の影響が大きいもの

代替: 成果の指標化が難しい場合に、代替指標として行政の活動量等を設定したもの

【取得方法】

市民アンケート: 毎年定期的に市民3,000人を対象に行う多賀城市まちづくりアンケートにより取得する方法

職員アンケート: 毎年定期的に職員を対象に行うアンケートにより取得する方法

業務取得: 業務内で取得する方法

課独自調査: 指標を取得するために各課等が行うアンケート等により取得する方法

【指標特性】

上がると良い: 数値が上がると良い指標

下がると良い: 数値下がると良い指標

その他: 数値の増減でよし悪しを判断できない指標

【前期基準値】

原則として、次のような取得年度となっています。これ以外の年度に取得している場合には、評価欄に記載しています。

市民アンケート、職員アンケート指標:

令和2年度に取得

業務取得、課独自調査指標: 平成31

年度に取得

【担当部署】令和7年度担当部署を記載しています。

施策の成果状況と評価

まち(市民、地域、行政)の防災・減災体制に安心感を持つ市民割合

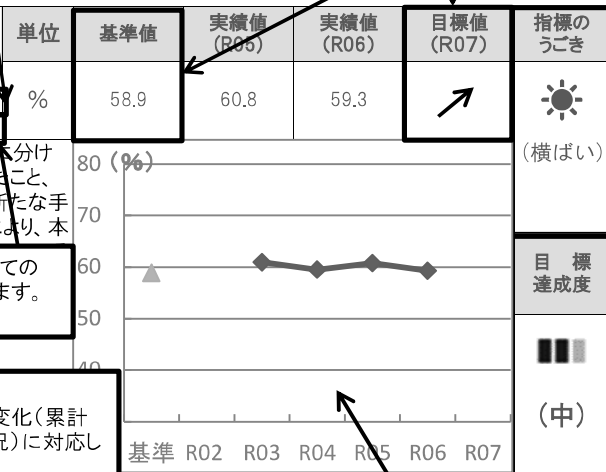
① 成果 市民アンケート 上がると良い 危機管理課

(原因)地域の自主防災組織の活動や市内を3ブロックに分けて実施するブロック地区訓練を総合防災訓練に導入したこと、災害情報を発信するため防災無線(同報系)の更新や新たな手段として多賀城市防災ビジョンの構築などの各種取組により、本市の防災・減災体制に対して一定の効果が要因と考えられます。
【注釈】指標についての説明を記載しています。
【統計誤差の範囲内です。】

【評価】

「(原因)」は、前期基準値と比較した際の実績値の数値変化(累計)については、前期目標値に対する数値(成果)の進捗状況に対応した原因分析の内容を記載しています。

また、市民アンケートに係る統計誤差及び前期基準値を原則以外の年度に取得した旨についても、記載しています。



◆は、各年度ごとの実績値です。指標の実績値の推移をグラフで示しています。

▲は、前期基準値及び令和7年度の前期目標値を示しており、目標値が数値の場合には、前期基準値から前期目標値への方向性をラインで示しています。目標値が矢印の場合には、前期基準値のみの表示となっています。

【掲載している施策・基本事業は、掲載例です。実際の内容とは異なります。】

□基本事業の成果状況と評価

基本事業の成果状況は、はじめりが右側のページとなるよう調整しています。

施策評価と見方は一緒です。

基本事業01 地域防災力の促進(自助・共助)									
指標	災害への備えをしている市民割合			単位	基準値	実績値 (R05)	実績値 (R06)	目標値 (R07)	指標のうごき
	①	成果	市民アンケート	上がると良い	危機管理課	%	54.8	56.8	50.9
評価	災害への備えを4つ以上していると回答した市民割合								(横ばい)
	(原因)防災ハザードマップや総合防災訓練、広報多賀城、出前講座などを通じて、日頃の備えや東日本大震災の記憶について伝承する活動を行っていますが、ここ数年本市において大きな災害が発生していないなど、災害に対する備えの意識が希薄化していることが要因と考えられます。 【統計誤差の範囲内です。】								目標達成度
									■ ■ ■ (中)

【目標値】
 目標値は、次の3つのパターンで表しています。
 数値：業務データから現状値を把握するもの
 矢印：目標値を数値で表しにくいもの(アンケートによる把握、取得方法変更等)と現状維持のもの
 ※アンケート指標については、統計誤差の関係があるため、方向性を矢印で表しています。
 ー：指標区分が「社会」のもの及び目標設定がなじまないもの

【指標のうごき】
 前期基準値(又は取得初年度)と比較した際の令和6年度の成果指標のうごきを、次の区分により示しています。
 なお、市民アンケートから数値を取得しているものは、一定の統計誤差を考慮しています。
 ※(向上)：数値(成果)が前期基準値(又は取得初年度)に比べ向上しているもの
 ※(横ばい)：数値(成果)が前期基準値(又は取得初年度)に比べ微向上(横ばい)であるもの
 ※(横ばい)：数値(成果)が前期基準値(又は取得初年度)に比べ微低下(横ばい)であるもの
 ※(低下)：数値(成果)が前期基準値(又は取得初年度)に比べ低下しているもの
 ー：累計以外で前期基準値がないもの、令和6年度に実績値がないもの、指標特性が「その他」のもの、取得初年度のもの
 ※累計については、目標値に対する数値(成果)の進捗状況に応じて、区分しています。

【目標達成度】
 成果指標の前期目標値への令和7年度(前期目標年度)を基準とした、達成度見込みを示しています。
 🏰 (達成)：前期目標値を達成しているもの
 ■■■ (高)：令和7年度(前期目標年度)で達成する可能性が高いもの
 ■■■ (中)：後期基本計画において、継続・事業展開が必要なもの
 ■■■ (低)：令和7年度(前期目標年度)までの達成は困難であるが、やむを得ないもの
 ー：前期目標値が「ー」のもの、令和6年度に実績値がないもの

政策 03 夢と希望が輝く 誰もが成長できるまちづくり

施策 01 学校・家庭・地域の連携による教育力の向上

施策の目指す姿

学校・家庭・地域が連携し、子どもたちの学びを支える地域社会が形成されることで、子どもたちがいきいきと安全に暮らすことができます。

施策の成果状況と評価

指標 ①	学校・家庭・地域が連携し、子どもたちの豊かな育ちを支え合う地域がつくられていると思う市民割合			単位	基準値	実績値 (R05)	実績値 (R06)	目標値 (R07)	指標の うごき
	成果	市民アンケート	上がると良い	生涯学習課	%	38.6	34.1	37	
評価	(原因) 学校・家庭・地域が連携して子どもの育ちを支える事業・地域行事などは再開されていますが、新型コロナウイルス感染症の影響により、これらの取組の停滞が長期化した影響から、数値の向上に至っていないことが要因と考えられます。 【統計誤差の範囲内です。】								(横ばい)
					目標達成度	■ (中)			

□基本事業の成果状況と評価

基本事業01 学校・家庭・地域の教育連携・協働の推進

指標①	学校・家庭・地域が連携した取組に参加している市民割合				単位	基準値	実績値 (R05)	実績値 (R06)	目標値 (R07)	指標のうごき
	成果	市民アンケート	上がると良い	生涯学習課	%	16.4	12.6	14.4	→	
評価	(原因) 学校・家庭・地域が連携した取組は再開されていますが、新型コロナウイルス感染症の影響により、取組の停滞が長期化した影響から、数値の向上に至っていないことが要因と考えられます。 【統計誤差の範囲内です。】									目標達成度 ■ (中)

基本事業01 学校・家庭・地域の教育連携・協働の推進

指標②	学校だけでは得られない知識や経験を地域住民から学ぶことができていると感じている児童の割合 (小学生)				単位	基準値	実績値 (R05)	実績値 (R06)	目標値 (R07)	指標のうごき
	成果	課独自調査	上がると良い	生涯学習課	%	77.3	78	82.7	→	
評価	(原因) 学校・家庭・地域が連携した取組が再開されたことに伴い、様々な知識や経験を学ぶことができていると実感する児童が増加したことが要因と考えられます。 【前期基準値取得年度は、令和2年度です。】									目標達成度 👑 (達成)

基本事業01 学校・家庭・地域の教育連携・協働の推進

指標③	学校だけでは得られない知識や経験を地域住民から学ぶことができている生徒の割合 (中学生)				単位	基準値	実績値 (R05)	実績値 (R06)	目標値 (R07)	指標のうごき
	成果	課独自調査	上がると良い	生涯学習課	%	80.9	73.2	72.6	→	
評価	(原因) 学校・家庭・地域が連携した取組は再開されていますが、新型コロナウイルス感染症の影響により、取組の停滞が長期化した影響から、数値の向上に至っていないことが要因と考えられます。 【前期基準値取得年度は、令和2年度です。】									目標達成度 ■ (中)

基本事業02 青少年の健全育成

指標①	青少年育成活動事業の延べ参加者数				単位	基準値	実績値 (R05)	実績値 (R06)	目標値 (R07)	指標のうごき
	代替	業務取得	上がると良い	生涯学習課	人/年	839	2,905	2,972	→	
評価	(原因) 小学校で放課後の空き教室などを活用して、子どもに体験の場を提供する放課後子ども教室や、小中学校の授業などを支援する学校支援活動が増え、参加する地域住民が増加したことが要因と考えられます。 【前期基準値取得年度は、令和3年度です。】									目標達成度 👑 (達成)

政策 03 夢と希望が輝く 誰もが成長できるまちづくり

施策 02 学校教育の充実

施策の目指す姿

児童・生徒の確かな学力、豊かな心、健やかな体が育まれることで、夢や希望が持てる充実した学校生活を送ることができています。

施策の成果状況と評価

指標 ①	学校生活を楽しんでいる児童割合（小学生）				単位	基準値	実績値 (R05)	実績値 (R06)	目標値 (R07)	指標の うごき
	成果	課独自調査	上がると良い	教育総務課	%	92.3	87.3	89.3	→	
評 価	教育活動状況調査の結果									
	(原因) 各校の工夫により、児童が前向きに学習や友達づくりに取り組んだことで、8割以上の高い水準で推移していますが、勉強が難しいと感じている児童割合が、学年が進むに従い増える傾向にあることが要因と考えられます。									

指標 ②	学校生活を楽しんでいる生徒割合（中学生）				単位	基準値	実績値 (R05)	実績値 (R06)	目標値 (R07)	指標の うごき
	成果	課独自調査	上がると良い	教育総務課	%	81	87.3	85.1	→	
評 価	教育活動状況調査の結果									
	(原因) 各校の工夫により、自分の意見を安心して伝えられるなどの環境の中、探究的な学習活動や行事等に取り組むことができたことが要因と考えられます。									

□基本事業の成果状況と評価

基本事業01 確かな学力の育成

指標①	授業がわかると答える児童割合（小学生）				単位	基準値	実績値 (R05)	実績値 (R06)	目標値 (R07)	指標のうごき
	成果	課独自調査	上がると良い	教育総務課	%	90,3	86,9	88,5	→	
評価	教育活動状況調査の結果									目標達成度
	(原因) 基準値を若干下回っているものの、ICT機器の活用やグループでの調べ活動、話し合いの機会を確保することで、児童同士が学び合いを行い、より主体的に学習に取り組めるように工夫していることが要因と考えられます。									(横ばい) 目標達成度 ■ (中)

基本事業01 確かな学力の育成

指標②	授業がわかると答える生徒割合（中学生）				単位	基準値	実績値 (R05)	実績値 (R06)	目標値 (R07)	指標のうごき
	成果	課独自調査	上がると良い	教育総務課	%	80,7	84,1	75,9	→	
評価	教育活動状況調査の結果									目標達成度
	(原因) 学習習慣が十分に身につけておらず、指導内容と生徒の理解度に乖離がある可能性が考えられます。加えて、学習に対する理解が十分に積み上がっておらず、基礎的な内容の定着が不十分な生徒がいることが要因と考えられます。									(低下) 目標達成度 ■ (中)

基本事業02 豊かな心の育成

指標①	不登校出現率				単位	基準値	実績値 (R05)	実績値 (R06)	目標値 (R07)	指標のうごき
	代替	業務取得	下がると良い	教育総務課	%	2,4	5,5	5,8	→	
評価	児童生徒の問題行動・不登校等生徒指導上の諸課題に関する調査を基に算出									目標達成度
	(原因) 学校生活や家庭生活に対する悩みや不安を抱え、集団活動に馴染みにくく、登校渋りとなる児童・生徒が増加しています。また、保護者の不登校に対する受け止め方の変化や、軽い風邪等の症状でも大事をとって学校を欠席させる家庭が増え、年間30日以上欠席した児童生徒が小学校低学年を中心に増加したことが要因と考えられます。									(低下) 目標達成度 ■ (中)

基本事業02 豊かな心の育成

指標②	再登校率				単位	基準値	実績値 (R05)	実績値 (R06)	目標値 (R07)	指標のうごき
	代替	業務取得	その他	教育総務課	%	19,8	37,7	35,4	—	
評価	児童生徒の問題行動・不登校等生徒指導上の諸課題に関する調査を基に算出									目標達成度
	(原因) 不登校児童・生徒に対して、スクールカウンセラーやスクールソーシャルワーカーによる相談対応、学び支援教室等の別室登校による対応、心のケアハウスの運営など様々な支援を行ってきたことが要因と考えられます。 【令和3年度から指標のとり方を変更しています。】									— 目標達成度 —

□基本事業の成果状況と評価

基本事業03 健やかな体の育成

指標 ①	基本的生活習慣を身に付けている児童割合（小学生）				単位	基準値	実績値 (R05)	実績値 (R06)	目標値 (R07)	指標の うごき
	成果	業務取得	上がると良い	教育総務課	%	87.1	89.1	88.6	→	
評 価	全国学力・学習状況調査の結果									☀ (向上)
	(原因) 朝食を毎日食べている児童の割合が増えたことや睡眠習慣が改善に向かったことが要因と考えられます。									目 標 達成度
					☑ (達成)					

基本事業03 健やかな体の育成

指標 ②	基本的生活習慣を身に付けている生徒割合（中学生）				単位	基準値	実績値 (R05)	実績値 (R06)	目標値 (R07)	指標の うごき
	成果	業務取得	上がると良い	教育総務課	%	81.7	86.9	88.7	→	
評 価	全国学力・学習状況調査の結果									☀ (向上)
	(原因) 朝食を毎日食べている生徒の割合が増えたことや睡眠習慣が改善に向かったことが要因と考えられます。									目 標 達成度
					☑ (達成)					

基本事業04 教育環境の保全と運営

指標 ①	授業及び学校生活に支障をきたした件数				単位	基準値	実績値 (R05)	実績値 (R06)	目標値 (R07)	指標の うごき
	成果	業務取得	下がると良い	教育総務課	件/年	0	0	0	0	
評 価										☀ (横ばい)
	(原因) 学校施設の維持管理に当たっては、定期的に施設整備の点検を行い、不具合発生前に修繕箇所を手当するなど、きめ細かい対応を行ったことが要因です。									目 標 達成度
					☑ (達成)					

政策 03 夢と希望が輝く 誰もが成長できるまちづくり

施策 03 生涯学習の促進

施策の目指す姿

生涯を通じて学び、活躍できる機会や場があることで、生きがいを持って社会に参加し、心豊かに暮らすことができます。

施策の成果状況と評価

指標 ①	生涯学習を行っている市民割合				単位	基準値	実績値 (R05)	実績値 (R06)	目標値 (R07)	指標の うごき
	成果	市民アンケート	上がると良い	生涯学習課	%	71.3	74.7	73.5	→	
評 価	(原因) 公民館などでの講座や教室、サークル活動のほか、インターネットなどの方法でいつでも自由に多様な学習機会が提供される環境が整ってきていることが要因と考えられます。 【統計誤差の範囲内です。】								☀ (横ばい)	
									■ (中)	

□基本事業の成果状況と評価

基本事業01 学びと発揮の機会の確保

指標①	学習機会に満足している市民割合				単位	基準値	実績値 (R05)	実績値 (R06)	目標値 (R07)	指標のうごき
	成果	市民アンケート	上がると良い	生涯学習課						
					%	88,3	88,1	90	→	 (横ばい)
評価	(原因) 公民館などでの講座や教室、サークル活動のほか、インターネットなどの方法でいつでも自由に多様な学習機会が提供される環境が整ってきていることが要因と考えられます。 【統計誤差の範囲内です。】								目標達成度 (中)	

基本事業01 学びと発揮の機会の確保

指標②	学習成果を生かしている市民割合				単位	基準値	実績値 (R05)	実績値 (R06)	目標値 (R07)	指標のうごき
	成果	市民アンケート	上がると良い	生涯学習課						
					%	66,4	67,3	66,1	→	 (横ばい)
評価	(原因) 学習機会が多様化したことで学ぶ場が増えたことにより、学習成果を自身の仕事や就職、趣味・健康・生活に生かすことができていることが要因と考えられます。 【統計誤差の範囲内です。】								目標達成度 (中)	

基本事業02 文化芸術の振興

指標①	文化芸術の直接鑑賞をしている市民割合				単位	基準値	実績値 (R05)	実績値 (R06)	目標値 (R07)	指標のうごき
	成果	市民アンケート	上がると良い	生涯学習課						
					%	53,3	62,8	64,7	→	 (向上)
評価	(原因) 新型コロナウイルス感染症が令和5年に5類感染症移行により感染状況が落ち着いたことで、文化芸術に関するイベントが多く開催されるようになったことや、映画や音楽の鑑賞、地域の祭りへの参加等、自ら動いた市民が増加したことが要因と考えられます。								目標達成度 (達成)	

基本事業02 文化芸術の振興

指標②	文化芸術活動をしている市民割合				単位	基準値	実績値 (R05)	実績値 (R06)	目標値 (R07)	指標のうごき
	成果	市民アンケート	上がると良い	生涯学習課						
					%	18,6	20,5	22,6	→	 (横ばい)
評価	(原因) 新型コロナウイルス感染症が令和5年に5類感染症移行により感染状況が落ち着いたことで、市民自らが文化芸術活動を行うことができる環境が整ってきたことが要因と考えられます。 【統計誤差の範囲内です。】								目標達成度 (中)	

□基本事業の成果状況と評価

基本事業03 生涯学習施設の保全と運営

指標 ①	生涯学習施設を利用している市民割合			単位	基準値	実績値 (R05)	実績値 (R06)	目標値 (R07)	指標の うごき														
	代替	市民アンケート	上がると良い	生涯学習課	%	52.2	51.9	60.6		➔													
評価	<p>(原因) 新型コロナウイルス感染症が令和5年に5類感染症移行により感染状況が落ち着いたことから、文化センター等の利用者が増加したことが要因と考えられます。また、前年度と比較して増加した要因は、令和5年7月に文化センターの大規模修繕が終了したことが考えられます。</p>				<table border="1"> <caption>生涯学習施設を利用している市民割合の推移</caption> <thead> <tr> <th>年度</th> <th>割合 (%)</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>基準</td> <td>52.2</td> </tr> <tr> <td>R03</td> <td>51.9</td> </tr> <tr> <td>R04</td> <td>51.9</td> </tr> <tr> <td>R05</td> <td>51.9</td> </tr> <tr> <td>R06</td> <td>60.6</td> </tr> <tr> <td>R07</td> <td>60.6</td> </tr> </tbody> </table>				年度	割合 (%)	基準	52.2	R03	51.9	R04	51.9	R05	51.9	R06	60.6	R07	60.6	<p>☀ (向上)</p> <p>目標 達成度</p> <p>🏰 (達成)</p>
年度	割合 (%)																						
基準	52.2																						
R03	51.9																						
R04	51.9																						
R05	51.9																						
R06	60.6																						
R07	60.6																						

政策 03 夢と希望が輝く 誰もが成長できるまちづくり

施策 04 市民スポーツ社会の促進

施策の目指す姿

運動・スポーツに親しむ機会や場があり、生涯を通じて、運動・スポーツの楽しさや感動を分かち合うことで、活力をもって暮らすことができます。

施策の成果状況と評価

指標 ①	週1回以上運動・スポーツをしている市民割合				単位	基準値	実績値 (R05)	実績値 (R06)	目標値 (R07)	指標の うごき
	成果	市民アンケート	上がると良い	生涯学習課	%	46.2	49.4	44.4	→	
評価	<p>(原因) 近年、実績値が上下しています。新型コロナウイルス感染症が令和5年に5類感染症移行によりスポーツを取り巻く環境が変化している一方で、運動・スポーツ習慣の定着化が実現できていないことが要因と考えられます。 【統計誤差の範囲内です。】</p>								 (横ばい)	目 標 達 成 度 (中)

□基本事業の成果状況と評価

基本事業01 スポーツ機会の確保

指標 ①	運動・スポーツ機会に満足している市民割合				単位	基準値	実績値 (R05)	実績値 (R06)	目標値 (R07)	指標の うごき
	成果	市民アンケート	上がると良い	生涯学習課	%	81.7	83.4	85	→	
評価	(原因) 新型コロナウイルス感染症の影響により、ウォーキングやランニングなどの個人で運動・スポーツを行う人が増加しており、集団で行う競技スポーツを併せ、多様な運動・スポーツの機会を持つことができていることが要因と考えられます。 【統計誤差の範囲内です。】								目標 達成度	
					■ (中)					

基本事業01 スポーツ機会の確保

指標 ②	スポーツ等の教室・大会の参加者数				単位	基準値	実績値 (R05)	実績値 (R06)	目標値 (R07)	指標の うごき
	代替	業務取得	上がると良い	生涯学習課	人/年	5,330	9,117	9,438	5,500	
評価	(原因) 新型コロナウイルス感染症の5類感染症移行に伴い、社会体育事業やスポーツ団体の活動が活発に開催されるようになり、市民が参加する機会が増えたことが要因と考えられます。								目標 達成度	
					🏰 (達成)					

基本事業02 社会体育施設等の保全と運営

指標 ①	社会体育施設等の利用者数				単位	基準値	実績値 (R05)	実績値 (R06)	目標値 (R07)	指標の うごき
	代替	業務取得	上がると良い	生涯学習課	人/年	296,806	249,329	250,719	350,000	
評価	市内公有社会体育施設及び学校開放施設の利用者数です。 (原因) 新型コロナウイルス感染症の影響により、個人で運動・スポーツを行う人が増加しており、集団で運動・スポーツを行う人を主な対象とする社会体育施設等の利用者が減少していることが要因であると考えられます。								目標 達成度	
					■ (中)					

政策 03 夢と希望が輝く 誰もが成長できるまちづくり

施策 05 文化財の保護と活用

施策の目指す姿

文化財が適切に保護・継承され、まちづくりに有効に活用されることで、市民が歴史と文化を身近に感じることができています。

施策の成果状況と評価

指標 ①	市の歴史と文化を身近に感じている市民割合			単位	基準値	実績値 (R05)	実績値 (R06)	目標値 (R07)	指標の うごき
	成果	市民アンケート	上がると良い	文化財課	%	55.2	63.1	66.4	
評 価	(原因) 普及啓発活動や特別史跡多賀城跡復元整備事業の進捗に加え、多賀城創建1300年記念事業や多賀城碑の国宝指定もあり、多くのメディアから情報発信されたことが要因と考えられます。								目標 達成度 (達成)
					(向上)				

□基本事業の成果状況と評価

基本事業01 文化財の調査・保存の推進

指標①	適正に調査・保護された文化財の件数				単位	基準値	実績値 (R05)	実績値 (R06)	目標値 (R07)	指標のうごき
		代替	業務取得	その他	文化財課	件	188	180	215	—
評価	周知の埋蔵文化財包蔵地の届出等件数及び特別史跡内現状変更申請件数									目標達成度
	(原因) 中央公園整備関連やNTT柱の建て替え件数の増加、個人住宅新築や外構工事及び古家の解体から新築に関する案件が増えていることが主な要因です。									---

基本事業02 文化財の活用促進

指標①	活用されている文化財の面積				単位	基準値	実績値 (R05)	実績値 (R06)	目標値 (R07)	指標のうごき
		成果	業務取得	上がると良い	文化財課	m ²	193,393	288,406	304,214	360,895
評価	周知の埋蔵文化財包蔵地の届出等件数及び特別史跡内現状変更申請件数									目標達成度
	(原因) 多賀城跡及び南門地区の整備完了に伴い、史跡の活用面積が増加したことが要因です。									■ (中)

基本事業02 文化財の活用促進

指標②	市内所在の文化財等訪問者数				単位	基準値	実績値 (R05)	実績値 (R06)	目標値 (R07)	指標のうごき
		代替	業務取得	上がると良い	文化財課	人/年	135,009	155,893	186,102	170,000
評価	周知の埋蔵文化財包蔵地の届出等件数及び特別史跡内現状変更申請件数									目標達成度
	(原因) 史跡を活用した多賀城創建1300年記念事業や関連イベントの開催、多賀城創建千三百年記念式典後の南門周辺の一部開放などに伴い、市内文化財等への関心及び訪問する機会が増加していることが要因と考えられます。									🏰 (達成)

基本事業03 文化財の普及啓発

指標①	市内所在文化財等の平均認知項目数				単位	基準値	実績値 (R05)	実績値 (R06)	目標値 (R07)	指標のうごき
		成果	市民アンケート	上がると良い	文化財課	項目	8.06	8.62	7.8	➔
評価	周知の埋蔵文化財包蔵地の届出等件数及び特別史跡内現状変更申請件数									目標達成度
	(原因) 多賀城創建1300年記念事業や関連イベント、多賀城碑の国宝指定により、多賀城跡や多賀城碑の認知度は向上した一方で、その他の市内文化財については例年並みの普及活動にとどまったことが、認知度が減少した要因と考えられます。									■ (中)

4 事務事業の点検・評価

教育委員会において実施した事業のうち、令和6年度主要な施策（総合計画に定める「基本事業」に大きく貢献する事業。）17事業について点検・評価を行いました。

(1) 評価結果の概要

事業状況	事務事業数	上位貢献	事務事業数
順調である	1件	向上余地は大	4件
概ね順調である	16件	向上余地は中	12件
順調ではない	—	向上余地は小	1件
合計	17件	合計	17件

(2) 令和6年度主要な施策一覧

教育委員会所管主要事業
17事業

事業状況		上位貢献	
1	順調である	1	大
2	概ね順調である	2	中
3	順調ではない	3	小

- 事業状況・・・事務事業の進捗状況について、当初予定と比較した状況となります。
 - 成果向上・・・事務事業を継続することにより、成果指標が今後も向上するのか、またはやり方を変えることにより成果向上が見込めないかどうかを検討します。
- ※主要事業とは、総合計画に定める「基本事業」に大きく貢献する事業です。

【政策3】 歴史・文化を継承し豊かな心を育むまち

No.	政策	施策	基本事業	事務事業名	担当課等	R6年度 決算額 (千円単位)	事業 状況	上位 貢献
							R6	R6
1	03	01	01	学校教育支援事業[小学校]	教育総務課	89,108	2	1
2	03	01	01	学校教育支援事業[中学校]	教育総務課	26,555	2	1
3	03	01	01	学校部活動地域移行事業	教育総務課	182	2	2
4	03	01	01	地域とともにある学校づくり事業(地域学校協働活動事業)	生涯学習課	7,499	2	1
5	03	02	02	たがじょう心のケア教育相談事業	教育総務課	21,887	2	2
6	03	02	03	学校給食調理事業	学校給食センター	513,720	2	2
7	03	02	03	学校給食センター運営事業	学校給食センター	77,910	2	2
8	03	02	04	小学校環境整備事業	教育総務課	105,329	2	2
9	03	02	04	中学校環境整備事業	教育総務課	7,660	2	2
10	03	02	04	学校ICT整備事業[小学校]	教育総務課	155,936	2	2
11	03	02	04	学校ICT整備事業[中学校]	教育総務課	87,344	2	2
12	03	02	04	小中学校通学区域適正化事業	教育総務課	134	2	2
13	03	02	04	地域とともにある学校づくり事業(コミュニティ・スクール事業)	教育総務課	1,271	2	2
14	03	03	02	令和の万葉大茶会交流事業	生涯学習課	6,000	1	2
15	03	05	02	特別史跡多賀城跡復元整備事業	文化財課	666,187	2	1
16	03	05	02	全国史跡整備市町村協議会等開催事業	文化財課	4,030	2	3
17	03	05	03	歴史遺産保全・発信事業	埋蔵文化財センター	12,982	2	2

指標 結果	事業状況		上位貢献	
		R6		R6
	順調である	1	大	4
	概ね順調である	16	中	12
順調ではない	0	小	1	

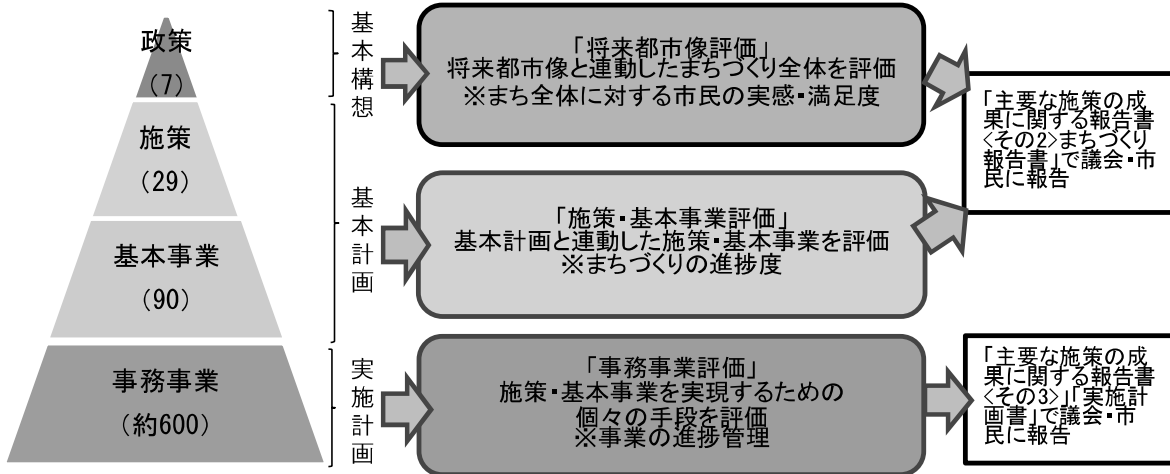
V 事務事業評価表(実施計画及び主要事業)

1 事務事業評価表とは

事務事業評価表は、基本事業を実現するための具体的な手段である「事務事業」について、上位施策の成果向上や目標達成に貢献しているか、より効果的な手法はないか、コストの妥当性や効率性はどうかといった項目について、年度ごとの予算・決算の状況を反映し、市が評価し、作成したものです。

年度ごとに評価を行うことで、事業進捗状況を確認するとともに、事業における手段の改革、改善を検討することに繋がっています。

【第六次多賀城市総合計画の構成】



○掲載事業

実施計画事業(※)及び主要事業(総合計画に定める「基本事業」に大きく貢献する事業)を掲載しています。

※ 実施計画とは

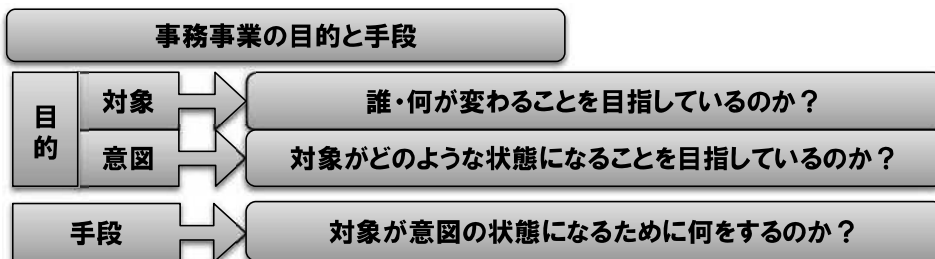
「実施計画」は、施策及び基本事業を実現するため、計画的に取り組む主要な事務事業を明らかにするので、毎年度の予算編成や当面の行財政運営の指針とするものです。実施計画に掲げる事務事業は、「①重点テーマに大きく寄与する政策的な事務事業」、「②普通建設事業(国、県、市事業の負担金などを含みます。）」、「③公共施設の長寿命化対策等に資する事務事業」の基準に該当するものを対象とします。事業計画期間は、3年間ですが、社会情勢の変化が著しいことから、毎年度見直すこととしています。また、補正予算においても実施計画対象基準に該当する事業が計上されることから、実施計画事業を追加しています。

2 「事務事業評価」と評価表の見方

事務事業をより効果的、効率的に実施するためには、意図(事業実施により、対象をどのような状態にしたいのか)と対象(誰に対して事業を行うのか)を明確にすることが重要となります。

この報告書では、「事務事業評価」として、掲載事業の経過、当該年度の取組内容や指標及び事業費の推移、また、それを踏まえた評価結果を示しています。

これは、事務事業がどのような状態を目指しているのかと事務事業の成果をわかりやすく簡潔に表すための仕組みであり、また、事務事業の取組結果が将来都市像やまちづくりに貢献するかどうかを総合計画の体系の中で確認・検証し、次の施策展開に反映するための仕組みでもあります。



<事務事業評価表の見方>

基本事業を実現する手段である事務事業のうち、主要な事業について、事務事業評価により事業の全容を行政評価の視点で記載しています。「目的はまちづくりにつながっているか」「何をどの程度実施したか」「手段は目的達成のために適切か」「コストは適切か」といった視点で評価・検討を行い、業務改善へとつなげるものです。

<p>●開始年度・終了年度・・・年度が決まっている場合に記載しています。</p> <p>●実施計画・重点テーマ・総合戦略・・・該当する事業に「○」を付しています。</p>		要 [999] (事項別明細書 ページ)																											
<p>事務事業名称</p> <p>開始年度</p> <p>終了年度</p> <p>実施計画 ○ 重点テーマ ○ 総合戦略</p>	<p>●会計・・・一般会計、特別会計、事業会計の区分</p> <p>●款項目・・・支出科目</p> <p>●政策・施策・基本事業・・・第六次多賀城市総合計画前期基本計画における位置付けを記載しています。</p>	<p>担当部</p> <p>担当課</p> <p>担当係</p> <p>●事項別明細書・・・それぞれの会計における事項別明細書のページを記載しています。</p> <p>●担当・・・令和7年度担当部署を記載しています。</p>																											
<p>事務事業の開始背景(根拠)、概要</p> <p>●事務事業の開始背景(根拠)、概要・・・複数の予算科目を合算している事務事業については、【この事務事業は○○と○○を合わせた事業です】と記載しています。</p>		<p>事務事業の全体計画</p> <p>●事務事業の全体計画・・・事務事業のこれまでの主な経過、全体計画(決定している場合)を記載しています。</p>																											
<p>対象(誰、何に対して働き掛けるのか)</p> <p>●対象・・・事務事業を通して市が働きかける、または恩恵を受ける人や団体、場所などを記載しています。</p>		<p>手段(05年度の取り組み)</p> <p>●手段・・・この事務事業において、当該年度に行う取り組みを記載しています。また、事業の特定財源(補助制度等)を活用した場合は、【○○補助金 国○/○】というように、参考として記載しています。繰越事業については、その旨を記載しています。</p>																											
<p>意図(対象をどのような状態にしたいのか)</p> <p>●意図・・・事務事業を行うことにより、「対象」をどのような状態にしたいのかを記載しています。</p>																													
<p>○指標、事業費の推移</p> <table border="1"> <thead> <tr> <th rowspan="2">区分</th> <th rowspan="2">指標名</th> <th rowspan="2">単位</th> <th>04年度</th> <th>05年度</th> <th>06年度</th> </tr> <tr> <th>実績</th> <th>実績</th> <th>実績</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td rowspan="2">対象指標</td> <td>A</td> <td rowspan="6">●対象指標・・・対象の規模を示すものさしです。</td> <td rowspan="6">●事業費・・・コスト推移の目安として、事業費及び財源内訳を千円単位で記載しています。「その他」には、繰越や使用料等、他の欄に該当しない財源をまとめています。※公営企業会計については、事業費に正職員人件費が含まれています。</td> <td rowspan="6">●正職員人件費・・・正職員人工数×平均人件費(給与費に保険等の事業主負担分を含めた1人当たり平均雇用コスト770万円)により算定しています。</td> <td rowspan="6">●トータルコスト・・・事業費に、正職員人件費を加えたものです。</td> </tr> <tr> <td>B</td> </tr> <tr> <td rowspan="4">活動指標</td> <td>C</td> <td rowspan="4">●活動指標・・・「事務事業の目的がどれだけ達成されたのか(対象が意図の状態にどれだけ近づいたのか)」を測るものさしです。</td> </tr> <tr> <td>D</td> </tr> <tr> <td>E</td> </tr> <tr> <td>F</td> </tr> </tbody> </table>			区分	指標名	単位	04年度	05年度	06年度	実績	実績	実績	対象指標	A	●対象指標・・・対象の規模を示すものさしです。	●事業費・・・コスト推移の目安として、事業費及び財源内訳を千円単位で記載しています。「その他」には、繰越や使用料等、他の欄に該当しない財源をまとめています。※公営企業会計については、事業費に正職員人件費が含まれています。	●正職員人件費・・・正職員人工数×平均人件費(給与費に保険等の事業主負担分を含めた1人当たり平均雇用コスト770万円)により算定しています。	●トータルコスト・・・事業費に、正職員人件費を加えたものです。	B	活動指標	C	●活動指標・・・「事務事業の目的がどれだけ達成されたのか(対象が意図の状態にどれだけ近づいたのか)」を測るものさしです。	D	E	F					
区分	指標名	単位				04年度	05年度	06年度																					
			実績	実績	実績																								
対象指標	A	●対象指標・・・対象の規模を示すものさしです。	●事業費・・・コスト推移の目安として、事業費及び財源内訳を千円単位で記載しています。「その他」には、繰越や使用料等、他の欄に該当しない財源をまとめています。※公営企業会計については、事業費に正職員人件費が含まれています。	●正職員人件費・・・正職員人工数×平均人件費(給与費に保険等の事業主負担分を含めた1人当たり平均雇用コスト770万円)により算定しています。	●トータルコスト・・・事業費に、正職員人件費を加えたものです。																								
	B																												
活動指標	C					●活動指標・・・「事務事業の目的がどれだけ達成されたのか(対象が意図の状態にどれだけ近づいたのか)」を測るものさしです。																							
	D																												
	E																												
	F																												
<p>付記事項</p> <p>●付記事項・・・補足説明などを記載しています。</p>		<table border="1"> <tr> <td>事業費</td> <td>合計</td> <td>千円</td> </tr> <tr> <td></td> <td>国支出金</td> <td>千円</td> </tr> <tr> <td></td> <td>県支出金</td> <td>千円</td> </tr> <tr> <td></td> <td>地方債</td> <td>千円</td> </tr> <tr> <td></td> <td>その他</td> <td>千円</td> </tr> <tr> <td></td> <td>一般財源</td> <td>千円</td> </tr> <tr> <td></td> <td>正職員人工数</td> <td>人工</td> </tr> <tr> <td></td> <td>正職員人件費</td> <td>千円</td> </tr> <tr> <td></td> <td>トータルコスト</td> <td>千円</td> </tr> </table>	事業費	合計	千円		国支出金	千円		県支出金	千円		地方債	千円		その他	千円		一般財源	千円		正職員人工数	人工		正職員人件費	千円		トータルコスト	千円
事業費	合計	千円																											
	国支出金	千円																											
	県支出金	千円																											
	地方債	千円																											
	その他	千円																											
	一般財源	千円																											
	正職員人工数	人工																											
	正職員人件費	千円																											
	トータルコスト	千円																											
<p>○これまでの取り組みの評価</p> <p>事業状況</p> <p>□ 順調である</p> <p>□ 概ね順調である</p> <p>□ 順調ではない</p> <p>●事業状況・・・「意図」欄又は「指標」に係る計画値に対する達成度合いからみた事務事業の進捗状況を記載しています。</p>																													
<p>上位貢献</p> <p>□ 貢献度は大</p> <p>□ 貢献度は中</p> <p>□ 貢献度は小</p> <p>●上位貢献・・・この事業が、将来都市像や施策・基本事業の目指す姿や指標に対して、貢献している度合いを記載しています。</p>																													

政策 3

夢と希望が輝く 誰もが成長できるまちづくり（教育文化）

【施策】

- 3-1 学校・家庭・地域の連携による教育力の向上
- 3-2 学校教育の充実
- 3-3 生涯学習の促進
- 3-4 市民スポーツ社会の促進
- 3-5 文化財の保護と活用

政策 1

みんなの力で減災 安全で安心に暮らせるまちづくり（安全安心）

【施策】

- 1-1 防災・減災対策の推進
- 1-2 防犯対策の推進
- 1-3 安全な消費生活の確保
- 1-4 交通安全対策の推進

政策 5

地域の資源と知恵をいかす 活気あふれるまちづくり（産業活気）

【施策】

- 5-1 農業の振興
- 5-2 商工業の振興
- 5-3 地域資源を活用した販わいの創出

政策 2

健やかで優しい 支え合いのあるまちづくり（健康福祉）

【施策】

- 2-1 地域福祉の推進
- 2-2 健康づくりの促進
- 2-3 子育て支援の充実
- 2-4 高齢者福祉の推進
- 2-5 障害者（児）福祉の推進
- 2-6 社会保障等の充実

政策 6

地域の未来を共に創る 絆と誇りを築くまちづくり（地域創生）

【施策】

- 6-1 地域経営の振興
- 6-2 多様な主体との連携・協働によるまちづくりの推進
- 6-3 地域資源を活用した市民文化の創造

政策 4

都市と自然の環境調和 快適で潤いのあるまちづくり（生活環境）

【施策】

- 4-1 自然と生活環境の調和
- 4-2 循環型社会の促進
- 4-3 良好なまちなみの保全
- 4-4 都市インフラの保全

政策 7

縮減社会への対応 持続可能な行財政経営（行財政経営）

【施策】

- 7-1 適正な事務の執行と行政サービスの提供
- 7-2 組織・人事マネジメントの推進
- 7-3 健全な企業経営の推進
- 7-4 環境変化に対応した行財政経営の推進

学校教育支援事業 [小学校]

担当部 教育委員会事務局
 担当課 教育総務課
 担当係 学校教育係

開始年度 終了年度 実施計画 ○ 重点テーマ ○ 総合戦略

会計	01 一般会計	政 策	03 夢と希望が輝く 誰もが成長できるまちづくり
款	10 教育費	施 策	01 学校・家庭・地域の連携による教育力の向上
項	02 小学校費	基本事業	01 学校・家庭・地域の教育連携・協働の推進
目	01 学校管理費		

事務事業の開始背景(根拠)、概要	事務事業の全体計画
<p>児童が夢や希望をもって充実した学校生活を送ることができるよう、各種支援員の配置や教育支援システムの活用等を行います。 令和6年度から「教育支援員活用事業[小学校]」を「学校教育支援事業[小学校]」に変更しています。</p>	<p>平成17年度 特別支援教育支援員の前段として学校すくすくプランとして実施開始(市単独) 平成20年度 特別支援学級在籍児童補助員と通常学級の障害児補助員を、特別支援教育支援員に統合 平成23年度 学習指導支援員、理科支援員を配置 令和6年度 特別支援教育支援システムの導入、医療的ケアを必要とする児童に対応する看護師の配置</p>
対象(誰、何に対して働き掛けるのか)	手段(06年度の取り組み)
<p>市内の小学校に在籍する児童</p>	<ul style="list-style-type: none"> 特別支援教育支援員の配置 学習指導支援員の配置 理科支援員の配置 医療的ケアを必要とする児童に対応する看護師の配置
意図(対象をどのような状態にしたいのか)	
<p>各種支援員等の活用により、一人一人の特性に応じたきめ細かい学習支援を行うことにより、充実した学校生活を送ることができています。</p>	<ul style="list-style-type: none"> 特別支援教育支援システムの導入及び本システムを活用した個別支援計画の作成等 【理科教育設備整備費等補助金 対象経費に対し国1/3】 【教育支援体制整備事業費補助金 対象経費に対し国1/3】

○指標、事業費の推移

区分	指標名	単位	04年度	05年度	06年度	
			実績	実績	実績	
対象指標	A 児童数(5月1日現在)(共通指標)	人	3,403	3,405	3,326	
	B					
活動指標	C 特別支援教育支援員数	人	37	39	42	
	D 理科支援員数	人	5	6	6	
	E 学習指導支援員数	人	6	6	6	
	F 支援システムにより作成した個別支援計画数	件	—		113	
付記事項		合計	千円	49,823	60,172	89,108
		国支出金	千円	505	488	1,700
		県支出金	千円			
		地方債	千円			
		その他	千円			
		一般財源	千円	49,318	59,684	87,408
		正職員人工数	人工	0.63	0.5	0.36
		正職員人件費	千円	5,040	3,650	2,772
		トータルコスト	千円	54,863	63,822	91,880

○これまでの取り組みの評価

事業状況	<input type="checkbox"/> 順調である	特別支援教育支援システムを活用し、子どもたち一人ひとりの特性を適切に把握するアセスメントの強化や、子どもたちの特性に応じた多様な学びの充実に向かい取り組んでいることから、概ね順調であると評価しています。
	<input checked="" type="checkbox"/> 概ね順調である	
上位貢献	<input type="checkbox"/> 順調ではない	
	<input checked="" type="checkbox"/> 貢献度は大	各種支援員の存在により児童への支援が手厚くなることで、安心して学べる環境が確保できるほか、学級全体の学びの質も向上することから、上位貢献は大と考えています。
	<input type="checkbox"/> 貢献度は中	
<input type="checkbox"/> 貢献度は小		

学校教育支援事業 [中学校]

担当部 教育委員会事務局
 担当課 教育総務課
 担当係 学校教育係

開始年度 終了年度 実施計画 ○ 重点テーマ ○ 総合戦略

会計	01 一般会計	政 策	03 夢と希望が輝く 誰もが成長できるまちづくり
款	10 教育費	施 策	01 学校・家庭・地域の連携による教育力の向上
項	03 中学校費	基本事業	01 学校・家庭・地域の教育連携・協働の推進
目	01 学校管理費		

事務事業の開始背景(根拠)、概要	事務事業の全体計画
生徒が夢や希望をもって充実した学校生活を送ることができるよう、各種支援員の配置や教育支援システムの活用等を行います。 令和6年度から「教育支援員活用事業[中学校]」を「学校教育支援事業[中学校]」に変更しています。	平成17年度 特別支援教育支援員の前段として学校 すくすくプランとして実施開始(市単独) 平成20年度 特別支援教育支援員を配置 令和2年度 部活動指導員を配置 令和6年度 特別支援教育支援システムの導入
対象(誰、何に対して働き掛けるのか)	手段(06年度の取り組み)
市内の中学校に在籍する生徒	<ul style="list-style-type: none"> 特別支援教育支援員の配置 部活動指導員の配置 特別支援教育支援システムの導入及び本システムを活用した個別支援計画の作成等 【地方スポーツ振興費補助金(中学校における部活動指導員の配置支援事業)対象経費に対し県2/3】
意図(対象をどのような状態にしたいのか)	
各種支援員等の活用により、一人一人の特性に応じたきめ細かい学習支援を行うことにより充実した学校生活を送ることができています。	

○指標、事業費の推移

区分	指標名	単位	04年度	05年度	06年度	
			実績	実績	実績	
対象指標	A 生徒数(5月1日現在)(共通指標)	人	1,524	1,562	1,595	
	B					
活動指標	C 特別支援教育支援員数	人	12	16	15	
	D 部活動指導員数	人	2	2	5	
	E 支援システムにより作成した個別支援計画数	件	-	-	35	
	F					
付記事項		合計	千円	13,098	20,647	26,555
		国支出金	千円			
		県支出金	千円	224	158	638
		地方債	千円			
		その他	千円			
		一般財源	千円	12,874	20,489	25,917
		正職員人工数	人工	0.63	0.5	0.34
		正職員人件費	千円	5,040	3,650	2,618
		トータルコスト	千円	18,138	24,297	29,173

○これまでの取り組みの評価

事業状況	<input type="checkbox"/> 順調である	特別支援教育支援システムを活用し、子どもたち一人ひとりの特性を適切に把握するアセスメントの強化や、子どもたちの特性に応じた多様な学びの充実に向かい取り組んでいることから、概ね順調であると評価しています。
	<input checked="" type="checkbox"/> 概ね順調である	
	<input type="checkbox"/> 順調ではない	
上位貢献	<input checked="" type="checkbox"/> 貢献度は大	各種支援員の存在により生徒への支援が手厚くなることで、安心して学べる環境が確保できるほか、学級全体の学びの質も向上することから、上位貢献は大と考えています。
	<input type="checkbox"/> 貢献度は中	
	<input type="checkbox"/> 貢献度は小	

学校部活動地域移行事業

担当部 教育委員会事務局
 担当課 教育総務課
 担当係 学校教育係

開始年度 R06 終了年度 実施計画 ○ 重点テーマ ○ 総合戦略

会計	01 一般会計	政 策	03 夢と希望が輝く 誰もが成長できるまちづくり
款	10 教育費	施 策	01 学校・家庭・地域の連携による教育力の向上
項	03 中学校費	基本事業	01 学校・家庭・地域の教育連携・協働の推進
目	01 学校管理費		

事務事業の開始背景(根拠)、概要	事務事業の全体計画
少子化が進む中、将来にわたり生徒がスポーツ・文化芸術活動に継続して親しむことができる機会を確保するため、令和4年度に国から、部活動の適正な運営や効果的な活動の在り方と、新たな地域クラブ活動の整備に係る考え方が示されました。国は、令和5年度以降、段階的な体制の整備を進め、地域の実情に応じて地域クラブ活動の運営主体を学校から多様な団体に展開することを目指しています。	令和5年度 アンケート調査及び意見交換会の実施 令和6年度 部活動の現状・実態の整理 部活動地域教育プロジェクト検討協議会設置、方針・方向性を検証 令和7年度 基本計画の作成 令和8年度 個別課題への対応

対象(誰、何に対して働き掛けるのか)	手段(06年度の取り組み)
児童・生徒、教員及び地域	・有識者で構成する「部活動地域教育プロジェクト検討協議会」を設置し、取組について検討を実施 ・保護者向けリーフレットの内容等についての協議
意図(対象をどのような状態にしたいのか)	
スポーツ・文化芸術団体との連携や保護者等との協力の下、学校と地域が協働し、生徒が望む形でスポーツ・文化芸術活動に取り組むことができる環境が整備されています。	

○指標、事業費の推移

区分	指標名	単位	04年度	05年度	06年度
			実績	実績	実績
対象指標	A 児童・生徒数(5月1日現在)(共通指標)	人	4,927	4,967	4,921
	B				
活動指標	C 部活動地域教育プロジェクト検討協議会開催回数	回	—	—	3
	D				
	E				
	F				
付記事項		合計	千円		182
令和7年度から「学校部活動地域移行事業」を「部活動地域教育プロジェクト事業」に変更しています。		国支出金	千円		
		県支出金	千円		
		地方債	千円		
		その他	千円		
		一般財源	千円		182
		正職員人工数	人工		
正職員人件費	千円			5,544	
		トータルコスト	千円		5,726

○これまでの取り組みの評価

事業状況	<input type="checkbox"/> 順調である	国や宮城県のガイドラインに基づき、運動部、文化部共に休日の部活動を行わないことを念頭におきつつ関係者と協議を進めていることから概ね順調であると評価しています。
	<input checked="" type="checkbox"/> 概ね順調である	
上位貢献	<input type="checkbox"/> 順調ではない	
	<input type="checkbox"/> 貢献度は大	学校内における先生や生徒同士との関係だけにとどまらず、地域内で幅広い年代との交流ができる環境が構築されることで、まちづくりへの関心や郷土愛の醸成も期待されることから、上位貢献は中と考えています。
	<input checked="" type="checkbox"/> 貢献度は中	
<input type="checkbox"/> 貢献度は小		

地域とともにある学校づくり事業 (地域学校協働活動事業)

担当部 教育委員会事務局
 担当課 生涯学習課
 担当係 社会教育係

開始年度	終了年度	実施計画	重点テーマ	総合戦略
会計 款 項 目	01 一般会計 10 教育費 04 社会教育費 02 社会教育振興費		政 策 03 夢と希望が輝く 誰もが成長できるまちづくり 施 策 01 学校・家庭・地域の連携による教育力の向上 基本事業 01 学校・家庭・地域の教育連携・協働の推進	

<p>事務事業の開始背景(根拠)、概要</p> <p>子どもを取り巻く環境が大きく変化しており、健やかな成長のためには、学校、家庭及び地域が役割と責任を自覚し、地域全体で教育に取り組む必要があります。そのため、学校・家庭・地域の連携・協働活動により一層の教育活動の充実を図るための体制を整備し、地域全体で子どもたちの成長を支えとともに、地域住民の交流を通じて、地域の教育力向上と活性化を図ります。</p>	<p>事務事業の全体計画</p> <p>平成20年度 家庭教育事業(子育て講座等)、放課後子ども教室推進事業開始 平成22年度 学校支援地域本部事業を開始 平成28年度 学校支援地域本部事業及び放課後子ども教室推進事業を市内全区に拡大完了、地域教育力向上事業(防災キャンプ)開始 令和4年度 学校支援地域本部の体制を基盤として地域学校協働本部に発展</p>
<p>対象(誰、何に対して働き掛けるのか)</p> <p>地域住民、子ども、その保護者</p>	<p>手段(06年度の取り組み)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・地域学校協働本部の運営(地域学校協働活動推進、情報交換等) ・学校支援活動(市内全中学校区での学習補助、学校行事等への支援活動)の実施 ・放課後子ども教室(全小学校での放課後の安全・安心な環境のもとでの様々な体験活動)の実施 ・家庭教育支援活動(子育て講座等)の実施 ・地域教育力向上(防災キャンプ等)の実施 <p>【子供への学習支援によるコミュニティ復興支援事業費補助金 県10/10】 【宮城県学校・家庭・地域連携協力推進事業費補助金 県2/3】</p>
<p>意図(対象をどのような状態にしたいのか)</p> <p>学校・家庭・地域の連携・協働した取組が実施されることにより、児童・生徒の学校の授業だけでは得られない知識・経験・能力が向上するとともに、学校を核として地域全体の教育力向上及び地域の活性化が図られ、人と人、人とまちとがつながり、次代を担う子どもたちが健やかに成長することができています。</p>	

○指標、事業費の推移

区分	指標名	単位	04年度	05年度	06年度
			実績	実績	実績
対象指標	A 児童・生徒数(5月1日現在)(共通指標)	人	4,927	4,967	4,921
	B 多賀城市人口(共通指標)	人	62,066	61,782	61,422
活動指標	C 地域学校協働活動実施回数	回	162	299	292
	D				
	E				
	F				
付記事項					
事業費	合計	千円	3,734	6,214	7,499
	国支出金	千円			
	県支出金	千円	3,421	5,664	6,686
	地方債	千円			
	その他	千円	20	46	
	一般財源	千円	293	504	813
	正職員人工数	人工	2.3	2.1	1.7
正職員人件費	千円	18,400	15,330	13,090	
トータルコスト	千円	22,134	21,544	20,589	

○これまでの取り組みの評価

事業状況	<input type="checkbox"/> 順調である	
	<input checked="" type="checkbox"/> 概ね順調である	地域学校協働活動推進員、学校の地域連携担当教員等とともに取組を実施しており、概ね順調であると評価しています。
上位貢献	<input checked="" type="checkbox"/> 貢献度は大	本事業により学校支援活動等とおして地域の人々が学校や児童・生徒への関わりを強め、それを契機として学校・家庭・地域の連携が強まり、学校を核として地域全体の教育力の向上と地域の活性化が期待できることから、上位貢献は大と考えています。
	<input type="checkbox"/> 貢献度は中	
	<input type="checkbox"/> 貢献度は小	

たがじょう心のケア教育相談事業

担当部 教育委員会事務局
 担当課 教育総務課
 担当係 学校教育係

開始年度	終了年度	実施計画	○	重点テーマ	○	総合戦略
会計	01 一般会計					
款	10 教育費					
項	01 教育総務費					
目	02 事務局費					
政 策	03 夢と希望が輝く 誰もが成長できるまちづくり					
施 策	02 学校教育の充実					
基本事業	02 豊かな心の育成					

事務事業の開始背景(根拠)、概要	事務事業の全体計画
<p>児童・生徒の悩みや不安、ストレスなどを受けとめ包括的に対応するため、子どもの心のケアハウスを中心とした支援ネットワークを構築し、ケアハウス支援員、スクールソーシャルワーカー及びスクールカウンセラーによる相談支援を行います。</p>	<p>平成9年度 スクールカウンセラー導入 平成10年度 心の教室相談員導入 平成22年度 スクールソーシャルワーカー導入 平成29年度 子どもの心のケアハウス設置(心の教室相談員をケアハウス支援員に変更) 令和4年度 子どもの心のケアハウスの運営を委託</p>
対象(誰、何に対して働き掛けるのか)	手段(06年度の取り組み)
<p>市内小中学校に在籍する児童・生徒及び次年度就学予定児童並びにその保護者、教職員等</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・問題を抱える児童・生徒への相談支援 ・学校内における相談支援体制の充実 ・学び支援教室等校内支援教室の運営支援 ・保護者、教職員等に対する支援、相談、情報提供 ・子どもの心のケアハウス運営業務の委託による不登校児童生徒の支援 ・関係機関等とのネットワークの構築、連携、調整
意図(対象をどのような状態にしたいのか)	
<p>児童・生徒に関する相談を受けることができる体制が構築され、子どもたちやその家庭が抱える問題・課題の早期発見・早期対応・適切な支援が行われることにより、次代を担う子どもたちが、地域社会で豊かに生きるための学びを得て、夢や希望を持つことができます。</p>	<p>【みやぎ子どもの心のケアハウス運営支援事業費補助金 県6/10 上限あり】 【スクールソーシャルワーカー活用事業委託金 県10/10】</p>

○指標、事業費の推移

区分	指標名	単位	04年度	05年度	06年度	
			実績	実績	実績	
対象指標	A 児童・生徒数(5月1日現在)(共通指標)	人	4,927	4,967	4,921	
	B					
活動指標	C ケアハウス通所児童・生徒数(延数)	人	276	373	375	
	D スクールカウンセラー相談件数(延数)	件	1,508	1,596	1,946	
	E アウトリーチ支援回数(令和4年度から)	回	48	40	45	
	F					
付記事項						
	事業費	合計	千円	22,086	21,476	21,887
		国支出金	千円			
		県支出金	千円	11,067	9,874	9,299
		地方債	千円			
		その他	千円	26		
		一般財源	千円	10,993	11,602	12,588
	正職員人工数	人工	1	0.92	0.85	
	正職員人件費	千円	8,000	6,716	6,545	
	トータルコスト	千円	30,086	28,192	28,432	

○これまでの取り組みの評価

事業状況	<input type="checkbox"/> 順調である	スクールカウンセラーの全校配置、スクールソーシャルワーカーの派遣、子どもの心のケアハウス事業の運営により、児童・生徒や保護者、学校等の相談支援・必要な支援へつなげる体制を構築していることから、概ね順調であると評価しています。
	<input checked="" type="checkbox"/> 概ね順調である	
上位貢献	<input type="checkbox"/> 順調ではない	
	<input type="checkbox"/> 貢献度は大	児童・生徒や保護者等が相談できる体制構築や不登校児童・生徒等への適切な対応を行うことができていることから、上位貢献は中と考えています。
	<input checked="" type="checkbox"/> 貢献度は中	
<input type="checkbox"/> 貢献度は小		

学校給食調理事業

担当部 教育委員会事務局
 担当課 学校給食センター
 担当係 学校給食センター

開始年度	終了年度	実施計画	重点テーマ	総合戦略
会計 款 項 目	01 一般会計 10 教育費 05 保健体育費 02 学校給食管理費		政 策 03 夢と希望が輝く 誰もが成長できるまちづくり 施 策 02 学校教育の充実 基本事業 03 健やかな体の育成	

事務事業の開始背景(根拠)、概要	事務事業の全体計画
学校給食法第8条により、学校給食実施基準に照らした適切な学校給食の提供を実施します。	平成27年度 経年劣化等により給食用食器を更新開始 平成30年度 小学校コースの給食用トレイ更新、食缶等順次更新開始 平成31年度 中学校コースの給食用トレイ、食缶等順次更新開始
対象(誰、何に対して働き掛けるのか)	手段(06年度の取り組み)
市立学校の児童・生徒	・安全・安心な給食を提供するため、「学校給食衛生管理基準」等に基づく適切な調理が実施できる民間事業者への外部委託により、給食調理を実施 ・給食食材は、適切な衛生管理等ができる事業者から納入 ・可能な限り多賀城産品を活かした給食を提供し、郷土にやどる食文化の理解度の向上を推進 【学校給食費徴収金】 【物価高騰対応重点支援地方創生臨時交付金 国】
意図(対象をどのような状態にしたいのか)	
適正な給食費のもと安全・安心で栄養バランスの取れた学校給食が提供されています。	

○指標、事業費の推移

区分	指標名	単位	04年度	05年度	06年度
			実績	実績	実績
対象指標	A 児童・生徒数(5月1日現在)(共通指標)	人	4,927	4,967	4,921
	B				
活動指標	C 食材の安全を確認した調達入札の実施	回	13	13	13
	D 給食調理従事者へ衛生講習の実施	回	3	3	3
	E 地場産品の使用割合	%	10	7	15
	F				
付記事項					
事業費	合計	千円	478,941	502,295	513,720
	国支出金	千円	17,654	39,755	46,918
	県支出金	千円			
	地方債	千円			
	その他	千円	283,658	285,182	284,950
	一般財源	千円	177,629	177,358	181,852
	正職員人工数	人工	1.3	1.1	0.8
正職員人件費	千円	10,400	8,030	6,160	
トータルコスト	千円	489,341	510,325	519,880	

○これまでの取り組みの評価

事業状況	<input type="checkbox"/> 順調である	
	<input checked="" type="checkbox"/> 概ね順調である	食材の物価高騰が大きく影響しましたが、献立の工夫や物資選定による食材費の抑制に努め、安全・安心で栄養価が満たされた給食の提供を行えたことから、概ね順調であると評価しています。
	<input type="checkbox"/> 順調ではない	
上位貢献	<input type="checkbox"/> 貢献度は大	
	<input checked="" type="checkbox"/> 貢献度は中	安全・安心で栄養バランスが取れた給食を提供することは、健やかな体の育成に必要なため、上位貢献は中と考えています。
	<input type="checkbox"/> 貢献度は小	

学校給食センター運営事業

担当部 教育委員会事務局
 担当課 学校給食センター
 担当係 学校給食センター

開始年度	終了年度	実施計画	○	重点テーマ	総合戦略
会計	01 一般会計			政 策	03 夢と希望が輝く 誰もが成長できるまちづくり
款	10 教育費			施 策	02 学校教育の充実
項	05 保健体育費			基本事業	03 健やかな体の育成
目	02 学校給食管理費				

事務事業の開始背景(根拠)、概要	事務事業の全体計画
学校給食法(法律第160号)第4条により、義務教育諸学校の設置者の任務により学校給食を実施します。学校給食センターは、学校給食を安定的に提供するため、平成14年度に建て替えられ開設しました。学校給食センターの機械設備、電気設備、給排水衛生設備、厨房設備等を、「設備等更新計画」に基づき更新し、設備等の健全化を図りながら、適切に維持管理を実施します。	平成25年度 設備・器具等の維持管理を適切に行い、設備等の機能を維持するため「設備等更新計画」策定 平成28年度 「設備等更新計画」見直し 毎年度保守点検の状況に応じて、随時計画見直しを実施
対象(誰、何に対して働き掛けるのか)	手段(06年度の取り組み)
市立学校の児童・生徒及び保護者 学校給食センターの施設、設備	<ul style="list-style-type: none"> 施設設備は、日常点検と専門業者の保守点検による予防保全等を実施 照明設備LED化改修工事【脱炭素化推進事業債 充当率90%、多賀城みらい基金繰入金】 空調設備更新工事[上処理室、和物室等系統] ※令和7年度へ繰越【学校施設環境改善交付金 国1/3、防災・減災・国土強靱化緊急対策事業債 充当率100%、多賀城みらい基金繰入金】 令和5年度繰越事業 空調設備更新工事[洗浄室・煮炊室]空調設備更新工事(その2)[コンテナ配送室]【学校施設環境改善交付金 国1/3、防災・減災・国土強靱化緊急対策事業債 充当率100%】
意図(対象をどのような状態にしたいのか)	
学校給食に係る施設・設備が維持管理されることによって、安心・安全な給食が提供されています。	

○指標、事業費の推移

区分	指標名	単位	04年度	05年度	06年度	
			実績	実績	実績	
対象指標	A 児童・生徒数(5月1日現在)(共通指標)	人	4,927	4,967	4,921	
	B 設備、器具等	式	1	1	1	
活動指標	C 運営審議会の開催回数	回	2	2	2	
	D 市内小中学校給食主任者会の開催回数	回	2	2	2	
	E 施設設備等の保守点検業務委託件数	件	12	12	12	
	F 設備器具等の修繕件数	件	60	68	103	
付記事項						
	事業費	合計	千円	61,604	54,301	77,910
		国支出金	千円	23,898	1,319	4,120
		県支出金	千円			
		地方債	千円		2,600	25,300
		その他	千円	3,740	5,076	27,279
	一般財源	千円	33,966	45,306	21,211	
	正職員人工数	人工	0.8	1	1.26	
正職員人件費	千円	6,400	7,300	9,702		
トータルコスト	千円	68,004	61,601	87,612		

○これまでの取り組みの評価

事業状況	<input type="checkbox"/> 順調である	
	<input checked="" type="checkbox"/> 概ね順調である	学校給食に係る施設・設備の適切な維持管理及び計画的な更新を行っていることから、概ね順調であると評価しています。
	<input type="checkbox"/> 順調ではない	
上位貢献	<input type="checkbox"/> 貢献度は大	
	<input checked="" type="checkbox"/> 貢献度は中	学校給食に係る施設・設備の適切な維持管理を行うことにより、安心・安全な給食の提供ができていることから、上位貢献は中と考えています。
	<input type="checkbox"/> 貢献度は小	

小学校環境整備事業

担当部 教育委員会事務局
 担当課 教育総務課
 担当係 教育総務係

開始年度	終了年度	実施計画	○	重点テーマ	○	総合戦略
会計	01 一般会計					
款	10 教育費					
項	02 小学校費					
目	01 学校管理費					
政 策	03 夢と希望が輝く 誰もが成長できるまちづくり					
施 策	02 学校教育の充実					
基本事業	04 教育環境の保全と運営					

事務事業の開始背景(根拠)、概要	事務事業の全体計画
<p>【この事務事業は、学校環境整備事業[小学校]及び[各小学校]を合わせた事業です。】 小学校の設置者である多賀城市は、校舎等の施設の環境の整備を実施し、不具合のない教育環境を確保する必要があります。 令和2年度に策定した公立学校施設長寿命化計画に基づき、計画的な学校環境の整備を行います。</p>	<p>令和5年度 校舎増築工事・長寿命化改良工事(渡廊下接合部等)・外構等整備工事(山王小)、空調設備設置(山王小、天真小) 令和6年度 山王小長寿命化改良工事(東側校舎)、空調設備設置(東小、城南小) 令和7年度 山王小長寿命化改良工事(西側校舎)、学校施設等長寿命化計画改定</p>
対象(誰、何に対して働き掛けるのか)	手段(06年度の取り組み)
<p>市立小学校の学校施設、児童、教職員</p>	<p>空調設置業務委託(城南小学校) 山王小学校長寿命化改良工事(東側校舎長寿命化関連工事) ※令和7年度へ繰越【学校施設環境改善交付金 国1/3】 【多賀城みらい基金繰入金】 【学校施設整備事業債 充当率90%】 【学校施設整備事業債(単独) 充当率75%】 空調設備設置工事(多賀城東小学校、城南小学校) ※令和7年度へ繰越【学校施設環境改善交付金 国1/3】 令和5年度繰越事業 空調設備設置業務委託(山王小学校、天真小学校)</p>
意図(対象をどのような状態にしたいのか)	
<p>教育環境を適切に維持管理することにより、子どもたちが安心して楽しく、快適に学ぶことのできる環境が保たれ、心豊かに学び、育つことができます。</p>	

○指標、事業費の推移

区分	指標名	単位	04年度	05年度	06年度	
			実績	実績	実績	
対象指標	A 児童数(5月1日現在)(共通指標)	人	3,403	3,405	3,326	
	B 小学校数	校	6	6	6	
活動指標	C 環境整備件数	件	3	3	3	
	D					
	E					
	F					
付記事項		合計	千円	40,732	738,848	105,329
		国支出金	千円	40,620	188,570	14,716
		県支出金	千円			
		地方債	千円		319,600	29,900
		その他	千円		225,796	59,988
		一般財源	千円	112	4,882	725
		正職員人工数	人工	0.4	0.35	0.33
		正職員人件費	千円	3,200	2,555	2,541
		トータルコスト	千円	43,932	741,403	107,870

○これまでの取り組みの評価

事業状況	<input type="checkbox"/> 順調である	計画的に学校環境の整備を行っていることから、概ね順調であると評価しています。
	<input checked="" type="checkbox"/> 概ね順調である	
	<input type="checkbox"/> 順調ではない	
上位貢献	<input type="checkbox"/> 貢献度は大	学校環境の整備を行うことにより、児童が安心して学校生活を送ることができていることから、上位貢献は中と考えています。
	<input checked="" type="checkbox"/> 貢献度は中	
	<input type="checkbox"/> 貢献度は小	

中学校環境整備事業

担当部 教育委員会事務局
 担当課 教育総務課
 担当係 教育総務係

開始年度 終了年度 実施計画 ○ 重点テーマ 総合戦略

会計	01 一般会計	政 策	03 夢と希望が輝く 誰もが成長できるまちづくり
款	10 教育費	施 策	02 学校教育の充実
項	03 中学校費	基本事業	04 教育環境の保全と運営
目	01 学校管理費		

事務事業の開始背景(根拠)、概要	事務事業の全体計画
<p>【この事務事業は、学校環境整備事業[中学校]及び[各中学校]を合わせた事業です。】 中学校の設置者である多賀城市は、校舎等の施設の環境の整備を実施し、不具合のない教育環境を確保する必要があります。 令和2年度に策定した公立学校施設長寿命化計画に基づき、計画的な学校環境の整備を行います。</p>	<p>令和4年度 多賀城中学校特別支援学級エアコン設置 令和5年度 空調設備設置(第二中学校、高崎中学校) 令和6年度 空調設備設置(第二中学校、東豊中学校)</p>
対象(誰、何に対して働き掛けるのか)	手段(06年度の取り組み)
<p>市立中学校の学校施設、生徒、教職員</p>	<p>空調設備設置工事(第二中学校、東豊中学校) ※令和7年度へ繰越 【学校施設環境改善交付金 国1/3】</p>
意図(対象をどのような状態にしたいのか)	
<p>教育環境が適切に維持管理されることで、安心な学校生活を送ることができています。</p>	<p>令和5年度繰越事業 空調設備設置工事(第二中学校) 【学校施設環境改善交付金 国1/3】 【学校施設整備事業債 充当率75%】 空調設備設置業務委託(高崎中学校)</p>

○指標、事業費の推移

区分	指標名	単位	04年度	05年度	06年度	
			実績	実績	実績	
対象指標	A 生徒数(5月1日現在)(共通指標)	人	1,524	1,562	1,595	
	B 中学校数	校	4	4	4	
活動指標	C 環境整備件数	件	1	0	2	
	D					
	E					
	F					
付記事項		合計	千円	5,071	16	7,660
		国支出金	千円	5,071		1,514
		県支出金	千円			
		地方債	千円			2,200
		その他	千円			3,946
		一般財源	千円		16	
		正職員人工数	人工	0.4	0.35	0.28
		正職員人件費	千円	3,200	2,555	2,156
		トータルコスト	千円	8,271	2,571	9,816

○これまでの取り組みの評価

事業状況	<input type="checkbox"/> 順調である	計画的に学校環境の整備を行っていることから、概ね順調であると評価しています。
	<input checked="" type="checkbox"/> 概ね順調である	
	<input type="checkbox"/> 順調ではない	
上位貢献	<input type="checkbox"/> 貢献度は大	学校環境の整備を行うことにより、生徒が安心して学校生活を送ることができていることから、上位貢献は中と考えています。
	<input checked="" type="checkbox"/> 貢献度は中	
	<input type="checkbox"/> 貢献度は小	

学校ICT整備事業 [小学校]

担当部 教育委員会事務局
 担当課 教育総務課
 担当係 教育総務係

開始年度	終了年度	実施計画	○	重点テーマ	○	総合戦略
会計	01 一般会計					
款	10 教育費					
項	02 小学校費					
目	02 教育振興費					
政 策	03 夢と希望が輝く 誰もが成長できるまちづくり					
施 策	02 学校教育の充実					
基本事業	04 教育環境の保全と運営					

事務事業の開始背景(根拠)、概要	事務事業の全体計画
教育の情報化を推進するため、政府において平成31年度に「GIGAスクール構想」に基づく学校のICT環境整備の推進、教員のICT活用指導力の向上等に取り組んでいます。 児童が情報社会に主体的に対応できる「情報活用能力」を身につけ、更なる学力向上につなげます。	平成27～30年度 校務支援システム・PC各校順次導入 令和2年度 学習者用端末・ICT機器・校内無線LAN整備 令和3年度 GIGAスクール本格運用 令和4年度 ICT支援員配置 令和6年度 多賀城市学校ICT構想計画の策定 令和7年度 ネットワーク統合調達準備 令和8年度 ネットワーク統合環境構築 令和9年度 ネットワーク統合環境運用開始
対象(誰、何に対して働き掛けるのか)	手段(06年度の取り組み)
小学校、児童、教職員	<ul style="list-style-type: none"> 各種システム、端末、ネットワーク機器等の保守管理 教育クラウドアプリケーション(デジタルドリル、プログラミング教材、デジタル教科書等)の活用、教職員研修の実施 ICT支援員を継続配置 校務DXを加味した端末等更新計画の検討 多賀城市学校ICT構想計画の策定
意図(対象をどのような状態にしたいのか)	
ICTを活用して、児童が情報社会に主体的に取り組む教育環境が整うことにより、子どもたちが、地域社会で豊かに生きるための学びを得て、夢や希望を持つことができます。	【公立学校情報機器活用支援体制整備費補助金 国1/3】 【公益財団法人宮城県市町村振興協会市町村交付金】 【多賀城みらい基金繰入金】

○指標、事業費の推移

区分	指標名	単位	04年度	05年度	06年度
			実績	実績	実績
対象指標	A 小学校数	校	6	6	6
	B 児童数(5月1日現在)(共通指標)	人	3,403	3,405	3,326
活動指標	C 授業及び学校生活に支障を来した不具合件数	件	0	0	0
	D 教育用パソコン配備台数	台	3,660	3,778	3,778
	E				
	F				
付記事項					
タブレット端末故障件数 令和3年度:90件 令和4年度:181件 令和5年度:184件 令和6年度:407件	合計	千円	149,721	144,175	155,936
	国支出金	千円	25,350		1,051
	県支出金	千円			
	地方債	千円			
	その他	千円		11,785	26,865
	一般財源	千円	124,371	132,390	128,020
	正職員人工数	人工	0.3	0.35	0.5
正職員人件費	千円	2,400	2,555	3,850	
トータルコスト	千円	152,121	146,730	159,786	

○これまでの取り組みの評価

事業状況	<input type="checkbox"/> 順調である	
	<input checked="" type="checkbox"/> 概ね順調である	授業等へ支障がないよう計画的に整備を実施していることから、概ね順調であると評価しています。
	<input type="checkbox"/> 順調ではない	
上位貢献	<input type="checkbox"/> 貢献度は大	
	<input checked="" type="checkbox"/> 貢献度は中	全国と同一水準の適切な学びの環境が整うことにより、児童が1人1台のタブレット端末を活用し学習に取り組むことができることから、上位貢献は中と考えています。
	<input type="checkbox"/> 貢献度は小	

学校ICT整備事業 [中学校]

担当部 教育委員会事務局
 担当課 教育総務課
 担当係 教育総務係

開始年度 終了年度 実施計画 ○ 重点テーマ ○ 総合戦略

会計	01 一般会計	政 策	03 夢と希望が輝く 誰もが成長できるまちづくり
款	10 教育費	施 策	02 学校教育の充実
項	03 中学校費	基本事業	04 教育環境の保全と運営
目	02 教育振興費		

事務事業の開始背景(根拠)、概要	事務事業の全体計画
教育の情報化を推進するため、政府において平成31年度に「GIGAスクール構想」に基づく学校のICT環境整備の推進、教員のICT活用指導力の向上等に取り組んでいます。 生徒が情報社会に主体的に対応できる「情報活用能力」を身につけ、更なる学力向上につなげます。	平成27～30年度 校務支援システム・PC各校順次導入 令和2年度 学習者用端末・ICT機器・校内無線LAN整備 令和3年度 GIGAスクール本格運用 令和4年度 ICT支援員配置 令和6年度 多賀城市学校ICT構想計画の策定 令和7年度 ネットワーク統合調達準備 令和8年度 ネットワーク統合環境構築 令和9年度 ネットワーク統合環境運用開始
対象(誰、何に対して働き掛けるのか)	手段(06年度の取り組み)
中学校、生徒、教職員	<ul style="list-style-type: none"> 各種システム、端末、ネットワーク機器等の保守管理 教育クラウドアプリケーション(デジタルドリル、プログラミング教材、デジタル教科書等)の活用、教職員研修の実施 ICT支援員を継続配置 校務DXを加味した端末等更新計画の検討 多賀城市学校ICT構想計画の策定
意図(対象をどのような状態にしたいのか)	
ICTを活用して、生徒が情報社会に主体的に取り組む教育環境が整うことにより、子どもたちが、地域社会で豊かに生きるための学びを得て、夢や希望を持つことができます。	【公立学校情報機器活用支援体制整備費補助金 国1/3】 【多賀城みらい基金繰入金】

○指標、事業費の推移

区分	指標名	単位	04年度	05年度	06年度	
			実績	実績	実績	
対象指標	A 中学校数	校	4	4	4	
	B 生徒数(5月1日現在)(共通指標)	人	1,524	1,562	1,595	
活動指標	C 授業及び学校生活に支障を来した不具合件数	件	0	0	0	
	D 教育用パソコン配備台数	台	1,821	1,833	1,833	
	E					
	F					
付記事項		合計	千円	79,175	76,861	87,344
タブレット端末故障件数 令和3年度:39件 令和4年度:92件 令和5年度:127件 令和6年度:197件		国支出金	千円	13,213		701
		県支出金	千円			
		地方債	千円			
		その他	千円		7,857	7,857
		一般財源	千円	65,962	69,004	78,786
		正職員人工数	人工	0.3	0.35	0.5
		正職員人件費	千円	2,400	2,555	3,850
		トータルコスト	千円	81,575	79,416	91,194

○これまでの取り組みの評価

事業状況	<input type="checkbox"/> 順調である	授業等へ支障がないよう計画的に整備を実施していることから、概ね順調であると評価しています。
	<input checked="" type="checkbox"/> 概ね順調である	
	<input type="checkbox"/> 順調ではない	
上位貢献	<input type="checkbox"/> 貢献度は大	全国と同一水準の適切な学びの環境が整うことにより、生徒が1人1台のタブレット端末を活用し学習に取り組むことができることから、上位貢献は中と考えています。
	<input checked="" type="checkbox"/> 貢献度は中	
	<input type="checkbox"/> 貢献度は小	

小中学校通学区域適正化事業

担当部 教育委員会事務局
 担当課 教育総務課
 担当係 学校教育係

開始年度	終了年度	実施計画	○	重点テーマ	○	総合戦略
会計	01 一般会計					
款	10 教育費					
項	01 教育総務費					
目	02 事務局費					
政 策	03 夢と希望が輝く 誰もが成長できるまちづくり					
施 策	02 学校教育の充実					
基本事業	04 教育環境の保全と運営					

事務事業の開始背景（根拠）、概要	事務事業の全体計画
周辺環境の変化に応じた適切な通学距離と安全確保を念頭に、通学区域の適正化について、調査・研究を進めていきます。	平成25年度 学区検討会議の開催(改編不要決定) 平成29年度 人口流動及び土地利用状況調査、意見交換会の開催(改編不要決定) 令和3年度 人口流動及び土地利用状況調査、庁内検討会議の開催 令和4年度 小中学校区検討会議の開催 令和5年度 小中学校区検討会議の開催(改編決定) 令和6年度 小中学校区検討会議の開催
対象（誰、何に対して働き掛けるのか）	手段（06年度の取り組み）
市立小中学校に通う児童・生徒及び次年度以降就学予定児童並びにその保護者	<ul style="list-style-type: none"> 保護者アンケートによる通学区域の現状調査 小中学校区検討会議(学識経験者、地域代表者、学校代表者、保護者代表者)における通学区域の現状確認及び東北学院大学工学部跡地における通学区域の検討等
意図（対象をどのような状態にしたいのか）	
通学における適正な距離と安全が確保されることにより、子どもたちが安心して自らの意思で学ぶことのできる環境が保たれ、心豊かに学び、育つことができます。	

○指標、事業費の推移

区分	指標名	単位	04年度	05年度	06年度	
			実績	実績	実績	
対象指標	A 児童・生徒数(5月1日現在)(共通指標)	人	4,927	4,967	4,921	
	B 新小学校1年生の児童の数(5月1日現在)	人	553	540	558	
活動指標	C 庁内関係課との協議回数	回	4	2	0	
	D 小中学校区検討会議の実施回数	回	3	3	2	
	E					
	F					
付記事項		合計	千円	164	168	134
	事業費	国支出金	千円			
		県支出金	千円			
		地方債	千円			
		その他	千円			
		一般財源	千円	164	168	134
		正職員人工数	人工	0.8	0.7	0.55
		正職員人件費	千円	6,400	5,110	4,235
		トータルコスト	千円	6,564	5,278	4,369

○これまでの取り組みの評価

事業状況	<input type="checkbox"/> 順調である	本市は、市民の転出・転入の件数が非常に多く、住宅地の小規模開発も頻繁に発生しており、児童・生徒数の適切な予測は難しい現状がありますが、小中学校区検討会議を開催のうえ対応方針について検討していることから、概ね順調であると評価しています。
	<input checked="" type="checkbox"/> 概ね順調である	
上位貢献	<input type="checkbox"/> 順調ではない	
	<input type="checkbox"/> 貢献度は大	各小中学校の通学路について適正な距離と安全が確保されることで、子どもたちが安心して学ぶことができる環境が保たれることから、上位貢献は中と考えています。
	<input checked="" type="checkbox"/> 貢献度は中	
<input type="checkbox"/> 貢献度は小		

地域とともにある学校づくり事業 (コミュニティ・スクール事業)

担当部 教育委員会事務局
 担当課 教育総務課
 担当係 学校教育係

開始年度	終了年度	実施計画	重点テーマ	総合戦略
会計 款 項 目	01 一般会計 10 教育費 01 教育総務費 02 事務局費		政 策 施 策 基本事業	03 夢と希望が輝く 誰もが成長できるまちづくり 02 学校教育の充実 04 教育環境の保全と運営

事務事業の開始背景(根拠)、概要	事務事業の全体計画
国は、「地域とともにある学校」の実現を目指し、地方教育行政の組織及び運営に関する法律を改正し、保護者や地域住民が学校運営に参画する仕組みである学校運営協議会の設置を努力義務化しました。学校運営協議会を設置し、地域と学校が連携・協働し、地域住民等の参画により地域全体で子どもたちを支える仕組みづくりを行います。	令和3年度 関係者の研修、協議、検討 令和4年度 学校運営協議会準備会の設置(先進2校) 令和5年度 学校運営協議会の設置(先進2校) 学校運営協議会準備会の設置(ほか8校) 令和6年度 学校運営協議会の設置(全小中学校)
対象(誰、何に対して働き掛けるのか)	手段(06年度の取り組み)
市民、児童・生徒、教職員、地域ぐるみ生徒指導委員会、地域関係団体	・先進校(多賀城八幡小学校、多賀城中学校)以外の各学校に学校運営協議会を設置 ・児童・生徒の自主学習を支援する取組(多賀城スクール。夏季及び冬季実施)など地域との連携による取組の実施 【子供への学習支援によるコミュニティ復興支援事業費補助金 県10/10】
意図(対象をどのような状態にしたいのか)	
学校運営に保護者や地域住民が参画し、地域と一体となった特色ある学校づくりが行われることにより、みんなの力で、次代を担う子どもたちが成長し、人と人、人とまちとがつながることができています。	

○指標、事業費の推移

区分	指標名	単位	04年度	05年度	06年度	
			実績	実績	実績	
対象指標	A 多賀城市人口(共通指標)	人	62,066	61,782	61,422	
	B 児童・生徒数(5月1日現在)(共通指標)	人	4,927	4,967	4,921	
活動指標	C 研修会、ワークショップ等実施回数	回	3	3	1	
	D 学校運営協議会開催回数	回	6	30	41	
	E					
	F					
付記事項		合計	千円	485	1,207	1,271
	事業費	国支出金	千円			
		県支出金	千円	215	194	78
		地方債	千円			
		その他	千円			
		一般財源	千円	270	1,013	1,193
		正職員人工数	人工	0.5	0.62	0.4
		正職員人件費	千円	4,000	4,526	3,080
		トータルコスト	千円	4,485	5,733	4,351

○これまでの取り組みの評価

事業状況	<input type="checkbox"/> 順調である	
	<input checked="" type="checkbox"/> 概ね順調である	令和6年度に全ての市立小中学校に学校運営協議会制度を設置したことから、概ね順調であると評価しています。
	<input type="checkbox"/> 順調ではない	
上位貢献	<input type="checkbox"/> 貢献度は大	
	<input checked="" type="checkbox"/> 貢献度は中	学校の運営に地域住民等が参画し、地域と一体となった特色ある学校運営を行うことで、次代を担う子どもたちを育てることができることから、上位貢献は中と考えています。
	<input type="checkbox"/> 貢献度は小	

令和の万葉大茶会交流事業

担当部 教育委員会事務局
 担当課 生涯学習課
 担当係 生涯学習係

開始年度 R03 終了年度 実施計画 ○ 重点テーマ ○ 総合戦略

会計	01 一般会計	政 策	03 夢と希望が輝く 誰もが成長できるまちづくり
款	10 教育費	施 策	03 生涯学習の促進
項	04 社会教育費	基本事業	02 文化芸術の振興
目	02 社会教育振興費		

事務事業の開始背景(根拠)、概要	事務事業の全体計画
<p>新元号「令和」の典拠となった万葉集「梅花の宴」を茶席で再現した「令和の万葉大茶会」が、令和元年から開催されています。万葉集の編者である大伴家持が赴任した地域が一堂に会して開催されていることから、ゆかりの地である本市も令和2年度から参画し、歴史・文化を通じた相互交流を行っています。多賀城創建1300年を迎える令和6年度には、本市で開催しました。</p>	<p>大茶会は毎年、加盟自治体で開催します。 平成31年度 軽井沢町(長野県)で開催 令和2年度 東京都で開催 令和3年度 高岡市(富山県)で開催 令和4年度 鳥取市(鳥取県)で開催 令和5年度 太宰府市(福岡県)で開催 令和6年度 多賀城市(宮城県)で開催 令和7年度 明日香村(奈良県)で開催予定</p>
対象(誰、何に対して働き掛けるのか)	手段(06年度の取り組み)
<p>日本最古の歌集である万葉集を編纂したとされる大伴家持ゆかりの自治体、市民</p>	<ul style="list-style-type: none"> 令和の万葉大茶会多賀城大会実行委員会に対し、事業補助金を交付 加盟自治体や運営に参画する市民団体等との連絡調整など、事務局業務を支援 万葉大茶会の内容:梅花の宴再現、茶会、万葉故地巡り、大会式典、基調講演、交流会等 <p>【市町村振興総合補助金 県1/2】 【多賀城みらい基金】</p>
意図(対象をどのような状態にしたいのか)	
<p>大伴家持が赴任した地域をつなぎ一堂に会して令和の万葉大茶会を開催するプロジェクトを推進することにより、歴史文化をとおした人々の交流から新しい価値が生まれ、多賀城らしい魅力を創ることができ、本市固有の歴史文化を次代に引き継ぐことができます。</p>	

○指標、事業費の推移

区分	指標名	単位	04年度	05年度	06年度	
			実績	実績	実績	
対象指標	A 加盟自治体数	団体	8	8	8	
	B 大茶会開催数	回	1	1	1	
活動指標	C 大茶会への参加(出席)数	回	1	1	1	
	D 大茶会主催回数	回	—	—	1	
	E					
	F					
付記事項		合計	千円	176	377	6,000
		国支出金	千円			
		県支出金	千円			2,500
		地方債	千円			
		その他	千円			1,000
		一般財源	千円	176	377	2,500
		正職員人工数	人工	0.15	0.5	1.75
		正職員人件費	千円	1,200	3,650	13,475
		トータルコスト	千円	1,376	4,027	19,475

○これまでの取り組みの評価

事業状況	<input checked="" type="checkbox"/> 順調である <input type="checkbox"/> 概ね順調である 加盟自治体として参加しており、予定どおり事業が開催されたことから、順調であると評価しています。 <input type="checkbox"/> 順調ではない
	<input type="checkbox"/> 貢献度は大 <input checked="" type="checkbox"/> 貢献度は中 令和6年度は主催市として開催し、多賀城らしい魅力を創ることができ本市固有の歴史文化を次代に引き継ぐことができたので、上位貢献は中と考えています。 <input type="checkbox"/> 貢献度は小

特別史跡多賀城跡復元整備事業

担当部 教育委員会事務局
 担当課 文化財課
 担当係 文化財係

開始年度 H29 終了年度 実施計画 ○ 重点テーマ ○ 総合戦略

会計	01 一般会計	政 策	03 夢と希望が輝く 誰もが成長できるまちづくり
款	10 教育費	施 策	05 文化財の保護と活用
項	04 社会教育費	基本事業	02 文化財の活用促進
目	04 文化財保護費		

事務事業の開始背景(根拠)、概要	事務事業の全体計画
多賀城創建1300年を迎える令和6年に向けて多賀城南門等の復元を行います。	平成29・30年度 周辺整備等の検討及び実施設計、多賀城南門及び周辺地区整備・活用基本方針策定 平成31～令和6年度 地形修復造成工事、南門復元工事、築地塀復元工事、多賀城跡ガイダンス施設建設工事 令和6年度末 復元工事完了 令和7年度 植栽等工事 令和8年度 報告書作成
対象(誰、何に対して働き掛けるのか)	手段(06年度の取り組み)
特別史跡多賀城跡附寺跡	・復元検討委員会の開催 令和5年度繰越事業及び令和6年度継続事業 ・南門周辺地形修復・築地塀復元工事【史跡等総合活用整備事業 国、重要文化財等防災施設整備事業 国、文化財整備活用事業債、東日本大震災復興基金繰入金、多賀城南門等復元事業等基金繰入金】 ・ガイダンス施設建設工事【社会資本整備総合交付金 国、デジタル田園都市国家構想交付金デジタル実装タイプ 国、文化財整備活用事業債、多賀城南門等復元事業等基金繰入金】 ※令和7年度へ繰越 記録映像制作業務 案内看板等設置工事 インターネットルーター等設置業務
意図(対象をどのような状態にしたいのか)	
多賀城南門等が復元されることにより、多賀城ならではの個性となり、人々の交流が促され、市民の誇りの拠り所であるとともに多賀城らしい魅力の発信拠点となっています。	

○指標、事業費の推移

区分	指標名	単位	04年度	05年度	06年度	
			実績	実績	実績	
対象指標	A 特別史跡多賀城跡附寺跡面積	ha	107.68	107.68	107.68	
	B					
活動指標	C 検討委員会議の開催回数	回	2	1	1	
	D 事業進捗率	%	67.44	78.57	86.36	
	E					
	F					
付記事項						
	事業費	合計	千円	248,556	341,692	666,187
		国支出金	千円	115,023	170,786	286,942
		県支出金	千円			
		地方債	千円	112,000	145,100	236,200
		その他	千円	21,533	25,806	140,252
		一般財源	千円			2,793
		正職員人工数	人工	3.8	3.6	1.8
	正職員人件費	千円	30,400	26,280	13,860	
	トータルコスト	千円	278,956	367,972	680,047	

○これまでの取り組みの評価

事業状況	<input type="checkbox"/> 順調である	令和6年度末に南門等の復元が完了し、令和7年度は良好な景観形成を図るために植栽等の整備に入るため、適切な進行管理を図りながら進めていることから、概ね順調であると評価しています。
	<input checked="" type="checkbox"/> 概ね順調である	
	<input type="checkbox"/> 順調ではない	
上位貢献	<input checked="" type="checkbox"/> 貢献度は大	南門等の復元が完成し、一般公開することにより、市民の文化財保護及び継承の意識が高まるとともに、まちづくりへの有効活用が図られることで市民が歴史と文化を身近に感じる機会が増えることから、上位貢献は大と考えています。
	<input type="checkbox"/> 貢献度は中	
	<input type="checkbox"/> 貢献度は小	

全国史跡整備市町村協議会等開催事業

担当部 教育委員会事務局
 担当課 文化財課
 担当係 文化財係

開始年度 R05 終了年度 R06 実施計画 ○ 重点テーマ ○ 総合戦略

会計	01 一般会計	政 策	03 夢と希望が輝く 誰もが成長できるまちづくり
款	10 教育費	施 策	05 文化財の保護と活用
項	04 社会教育費	基本事業	02 文化財の活用促進
目	04 文化財保護費		

事務事業の開始背景(根拠)、概要	事務事業の全体計画
昭和41年に史跡等の整備に関する調査研究とその具体的方策の推進を図り、文化財の保存活用に資するために、市町村が協調して活動する目的で設立されました。本市も設立当初から加盟しており、多賀城跡をはじめとする特別史跡多賀城跡附寺跡の整備事業の推進に大きく寄与しています。多賀城創建1300年を迎えた令和6年度は、本市で開催されました。	令和5年度 実行委員会の発足、大会素案の作成 令和6年度 大会案の決定、大会の実施、実行委員会の解散
対象(誰、何に対して働き掛けるのか)	手段(06年度の取り組み)
全国史跡整備市町村協議会加盟自治体、宮城県史跡整備市町村協議会加盟自治体、関係省庁	
意図(対象をどのような状態にしたいのか)	
全国史跡整備市町村協議会総会・大会を本市で開催し、復元整備した多賀城南門・築地堀を全国史跡整備市町村協議会加盟自治体に周知することで、市民の誇りとなる文化財の保存活用が進められるとともに、人々の交流から新しい価値が生まれ、広く全国に多賀城らしい魅力を発信することができています。	「第59回全国史跡整備市町村協議会大会」を開催 10月9日 総会、講演会、情報交換会 10月10・11日 エクスカーション

○指標、事業費の推移

区分	指標名	単位	04年度	05年度	06年度
			実績	実績	実績
対象指標	A 加盟自治体・団体	団体		629	632
	B				
活動指標	C 参加自治体数	団体		—	183
	D				
	E				
	F				
付記事項		合計	千円	169	4,030
事業費	国支出金	千円			
	県支出金	千円			
	地方債	千円			
	その他	千円			
	一般財源	千円		169	4,030
	正職員人工数	人工		1.25	1.25
正職員人件費	千円		9,125	9,625	
		トータルコスト	千円	9,294	13,655

○これまでの取り組みの評価

事業状況	<input type="checkbox"/> 順調である	本大会については例年以上の加盟自治体の参加があり、盛会のうちに終了しました。参加自治体からは復元した南門をはじめ視察内容にも好評の声を多くいただき、広く全国に多賀城らしい魅力を発信できたことから、概ね順調であると評価しています。
	<input checked="" type="checkbox"/> 概ね順調である	
上位貢献	<input type="checkbox"/> 順調ではない	
	<input type="checkbox"/> 貢献度は大	
	<input type="checkbox"/> 貢献度は中	
	<input checked="" type="checkbox"/> 貢献度は小	令和6年度で事業が終了しました。

歴史遺産保全・発信事業

担当部 教育委員会事務局
 担当課 埋蔵文化財調査センター
 担当係 埋蔵文化財調査センター

開始年度	終了年度	実施計画	<input type="radio"/>	重点テーマ	<input type="radio"/>	総合戦略
会計	01 一般会計			政 策	03 夢と希望が輝く 誰もが成長できるまちづくり	
款	10 教育費			施 策	05 文化財の保護と活用	
項	04 社会教育費			基本事業	03 文化財の普及啓発	
目	06 埋蔵文化財調査センター費					

事務事業の開始背景(根拠)、概要	事務事業の全体計画
多賀城市の歴史、文化財に対する関心を高め、歴史資産を適切に後世に伝えるために、これまで行ってきた様々な調査をいかし、常設展示や歴史講座の開催、刊行物の作成を行います。	昭和62～平成13年度 多賀城市の通史を展示 平成2年度 講座事業開始 平成14年度 常設展示を「古代都市多賀城」テーマ展示に転換(東北歴史博物館との役割分担から) 平成19年度 埋蔵文化財調査センター体験館(多賀城史遊館)を開館し、体験学習を開始 令和3～6年度 多賀城創建1300年に向けた連続企画展
対象(誰、何に対して働き掛けるのか)	手段(06年度の取り組み)
市内の歴史遺産、市民、多賀城市の歴史に関心のある方	<ul style="list-style-type: none"> 多賀城創建1300年に向けた古代多賀城をテーマにした展示の集大成として企画第4弾となる企画展を開催 速報展及び資料展を開催 歴史講座を開催 多賀城碑が国宝に指定されたことを記念し、宮城県教育委員会との共催で講演会を開催 【国宝重要文化財等保存・活用事業費補助金 国1/2、多賀城みらい基金繰入金、町誌・市史等売払金、体験学習材料代等実費徴収金、イベント参加者保険料、歴史講座資料代実費徴収金】
意図(対象をどのような状態にしたいのか)	
地域と行政が一体となって、文化財が適切に保存管理され、文化財の普及・啓発がなされることにより、人と人との温かな輪の中で、本市の悠久の歴史が紐解かれ、観光や産業振興等の礎として新たな価値が生まれ、多賀城らしい魅力を創ることができています。	

○指標、事業費の推移

区分	指標名	単位	04年度	05年度	06年度
			実績	実績	実績
対象指標	A 多賀城市人口(共通指標)	人	62,066	61,782	61,422
	B				
活動指標	C 展示室の開館日数	日	294	299	298
	D 体験館の開館日数	日	300	304	303
	E 展示室の入館者数(年間)	人	3,356	4,346	6,582
	F 体験館の入館者数(年間)	人	1,631	2,382	3,156
付記事項					
事業費	合計	千円	2,720	3,238	12,982
	国支出金	千円	939	940	1,567
	県支出金	千円			
	地方債	千円			
	その他	千円	961	2,240	2,210
	一般財源	千円	820	58	9,205
	正職員人工数	人工	1.8	1.8	2.2
正職員人件費	千円	14,400	13,140	16,940	
トータルコスト	千円	17,120	16,378	29,922	

○これまでの取り組みの評価

事業状況	<input type="checkbox"/> 順調である	新型コロナウイルス感染症の影響から入館者数が伸び悩んだものの、令和4年度以降、復調傾向にあり、企画展・資料展等来館者アンケートにおいても良い評価を得ていることから、概ね順調であると評価しています。
	<input checked="" type="checkbox"/> 概ね順調である	
上位貢献	<input type="checkbox"/> 順調ではない	
	<input type="checkbox"/> 貢献度は大	市民が親しみやすい展示や魅力ある刊行物の発行、子どもたちが参加できる歴史体験イベントなどの継続により、文化財に対する関心が徐々に高まることから、上位貢献は中と考えています。
	<input checked="" type="checkbox"/> 貢献度は中	
<input type="checkbox"/> 貢献度は小		

Ⅲ 学識経験者の意見

令和6年度教育委員会の点検及び評価に対する意見

宮城県教育庁義務教育課心のサポートアドバイザー 當麻 哲 氏

1 学校・家庭・地域の連携による教育力の向上について

社会の現状として、人口減少や少子高齢化、家族構造の変化、地域間格差等により地域社会のつながりが希薄化し、地域コミュニティの弱体化が懸念されている。また、児童虐待や貧困といった家庭環境の問題、学校ではいじめや不登校をはじめとして、抱える課題も複雑化・多様化している。このような現状を踏まえて、学校・家庭・地域が連携・協働して、地域社会全体で子どもを守り育てる環境をつくり、教育力を向上させていくことはとても重要な課題であると考えられる。

令和6年度のまちづくり報告書の施策評価では、学校・家庭・地域の連携・協働による教育力向上についての評価は上向きであると捉えられる。これまでは新型コロナウイルス感染症拡大の影響により、取組の停滞が長期化した影響から向上に至っていないとされていたが、地域学校協働活動をはじめ、学校支援活動や地域教育力向上事業等を計画的に進めてきていることが成果として表れているものと思われる。引き続き事業を推進していくことを期待したい。また、児童生徒は、学校だけでは得られない知識や経験を地域住民から学ぶことができていると評価しており、着実に子どもたちの学びにつながっていると同時に地域への理解・関心が深まっていると考えられる。

青少年の健全育成事業として、小学校の空き教室などを活用して子どもに体験の場を提供する「放課後子ども教室」や、授業などを支援する「学校支援活動」を増やしたことで地域住民の参加人数が増加していることは喜ばしいことである。

今後は、学校を核とした地域づくりを支援する「地域学校協働本部」と学校運営に地域の声を積極的に生かし、地域と共にある学校づくりを進める「学校運営協議会」が両輪となって、学校と地域との連携・協働を推進していくことを期待したい。

2 学校教育の充実について

「学校生活が楽しい」と答えた小学生は89%、中学生は85%と高い割合であることは喜ばしいことだが、「授業が分かる」と答えた小学生は88%と高いのに対して、中学生は75%と前年度よりも下がっており低い結果

となっている。このことは、勉強が分からない、難しいと感じている割合は、学年が上がるに従い増える傾向にあると考えられる。理解できずにつまずいたまま進級してしまうことは問題である。一斉指導が必要な授業もあると思うが、教師主導のやらされている授業になっていないか、学習意欲がわからない画一的でメリハリのない授業になっていないかを振り返り、子どもたち一人ひとりが主体的に学び、自らの力で課題解決していける授業デザインの工夫をしていくことが必要ではないかと考える。令和6年度の多賀城市の教育重点目標にも、確かな学力育成のための授業改革の一つとして、個別最適な支援を行うための「多層的な支援」の実現があげられている。ICTを効果的に活用しながら児童生徒一人ひとりが主体的・対話的で深い学びとなるような授業改善を進めていってほしい。

市内小中学校の不登校や登校しぶりの児童生徒の増加は続いている。学校生活や家庭生活での悩みや不安、スマホ・ゲーム依存による生活リズムの乱れ、他にも様々な要因が考えられるが、児童生徒の気持ちを受け止め、安心して学べる居場所の確保は必要不可欠である。学校では学び支援教室や別室での支援等で個の状況に応じた支援を行っていると思うが、学校以外の居場所として、たがじょう子どもの心のケアハウスやフリースクール等を利用している児童生徒もいる。今後も、スクールカウンセラーやスクールソーシャルワーカーとも相談し、学校・家庭・関係機関が連携・情報共有して学び支援や社会的自立支援、教育相談体制等の充実を図ってほしい。いじめや問題行動についても、未然防止と早期対応に向けた教育相談体制を充実し、学校・家庭・関係機関が連携して、いじめ防止に協働で取り組んでほしい。

3 生涯学習の促進について

新型コロナウイルス感染症の影響もほとんどなくなり、公民館などでの講座や教室、サークル活動のほか、いつでも自由に多様な学習機会が提供される環境が整ってきた。このことで学習機会が増え、学習成果を自身の仕事や趣味、健康、生活に生かすことができている市民が増えてきていることは、大変喜ばしいことである。さらに、文化芸術に関するイベントが多く開催され、映画や音楽鑑賞、地域のお祭り等に多くの市民が参加されていることは、単に鑑賞するだけでなく、自ら参加することによって心身に良い影響を与え、豊かな人生の実現につながるのではないかと思う。また、文化センタ

一の大規模改修工事が終了したことにより、文化芸術に関するイベントなどが多く開催されるようになったことで利用者が増えてきている。今後も、市民の誇りの拠り所であるとともに多賀城らしい魅力の発進拠点として様々なイベントの開催を期待したい。

生涯学習を推進していくために魅力的な事業を展開し、学び続けることのできる機会のある場、文化芸術の振興の場として、市民へのサービス向上を目指して事業をさらに進めていってほしい。

4 市民スポーツ社会の促進について

新型コロナウイルス感染症の終息に伴い、個人で運動・スポーツを行う人が増え、社会体育事業やスポーツ団体の活動も活発に開催されるようになったことで、参加者が大幅に増加していることは大変喜ばしいことである。市民がスポーツに親しむことができる環境を提供することは、心身の健康の保持・増進を促し、生涯に渡ってスポーツに親しみ、人と人との交流にもつながることである。今後も多様なスポーツ事業を展開して施設の利用促進を図ってほしい。

中学校の部活動が地域移行となることから、国や県のガイドラインに基づいて多賀城市も「学校部活動地域移行事業」として進めているが、どのように移行されるのか、生徒や保護者は不安に思うことがあるのではないかとと思う。生徒たちが学校の枠をこえて地域展開する中で生き生きと安心して継続的に活動できるよう、ビジョンを示しながら学校、地域、行政、関係する諸団体とが連携をして計画的に進めていってほしい。

5 文化財の保護と活用について

令和6年度は、多賀城創建1300年記念式典が開催され、復元が進む南門がお披露目されたことや、多賀城碑が国宝指定されたこと等、市民だけでなく、多賀城市以外の多くの方々にも史都多賀城のすばらしさを知っていただいたことは喜ばしいことである。多賀城の歴史や文化財は大変貴重な遺産であることから、これまで事業を進めてきた教育委員会の文化財課をはじめ、事業に携わった方々に敬意を表したい。

今後も史都多賀城の歴史・文化・まちについて学ぶ機会を増やし、市の文化財を次世代に継承していくことの大切さを市民に理解していただくような取り組みや、郷土愛を育む教育をさらに推進していくことを期待したい。

6 総括的意見について

教育文化の5つの施策について、前年度までの点検・評価した結果を踏まえて改善し、事業計画に沿って着実に事業展開いただいたことに感謝するとともに敬意を表したい。

事業を進めていくためのキーワードは「連携」ではないかと考える。学校教育、家庭教育、社会教育等、地域全体の教育力の向上や教育環境を充実させていくためには、様々な意見や要望を受け止め、広角的な視点から捉えて評価し、よりよい施策となるよう改善していくことが大切ではないかと考える。学校・家庭・地域・関係機関等との連携を図りながら各施策の目指す姿（目標）が達成できるようさらなる事業の推進に期待したい。

令和6年度教育委員会の点検及び評価に対する意見

前多賀城市立山王小学校長 千葉 雅弘 氏

1 学校・家庭・地域の連携による教育力の向上について

『多賀城市教育振興基本計画』の基本理念である「学校・家庭・地域が連携し、子どもたちの学びを支える地域社会の形成」のもと、地域学校協働本部の運用や学校運営協議会の全校設置、放課後子ども教室における地域ボランティアの活用など、学校教育を地域全体で支える体制づくりが進められています。

アンケート結果では、小学生において「地域住民から学校だけでは得られない知識や経験を学んでいる」と回答した割合が82.7%と基準値を上回っており、地域人材を生かした学習の成果が認められます。一方、中学生では同項目が72.6%と基準値を下回っており、地域連携活動が学習内容や進路意識と十分に結び付いていない可能性が示唆されています。今後は、職場体験や防災訓練を単なる体験にとどめず、生徒が企画・運営に関わることで、地域の一員としての役割を実感できる取組へと発展させることが重要です。

また、青少年育成事業は参加者数が2,972人と基準値（838人）を大幅に上回り、施策が活発に展開されている点は高く評価できますが、市民アンケートにおける主観的評価が基準値を下回っている点は課題です。これは、特定の層が繰り返し参加することで延べ人数は増加している一方、一般市民への広がりや「共に教育を担う当事者」としての意識形成が十分でない可能性を示しています。今後は、参加人数だけでなく、子どもの成長実感や地域との継続的な関係構築につながっているかを把握する質的評価を重視する必要があります。

令和6年度に全校設置された学校運営協議会は、学校と地域が対等な立場で教育課題を共有し、特色ある取組を創出するための重要な基盤です。今後は、協議会での議論を授業や行事、防災、部活動の地域移行など具体的な教育活動に結び付け、その成果を児童生徒や保護者に分かりやすく示していくことが求められます。

2 学校教育の充実について

学校教育の充実に向けた取組は、「確かな学力」「豊かな心」「健やかな体の育成」という教育大綱の基本的な方向性に沿って、一定の成果を上げていると評価できます。一方で、学年進行や校種間における課題も明確になっています。

小学生では「学校生活が楽しい」と感じる割合が89.3%と前年度より改善したものの、基準値には達していません。中学生では同項目が85.1%と基準値

(81.0%)を上回っているものの、前年度からはわずかに低下しており、学校生活への満足感を持続させるための取組が求められます。

学力面では、小学生の「授業がわかる」と回答した割合は88.5%と前年度から向上していますが、基準値未達の状況が続いています。中学生では同割合が75.9%と基準値(80.7%)を下回り、前年度から8.2ポイント低下しており、学習習慣の未定着や基礎学力に関する課題が顕在化しています。35人学級への対応やICT構想計画については、制度整備にとどめず、授業改善や個別支援の実効性向上に結び付けることが重要です。特にICTについては、端末を使用すること自体を目的化せず、AI型ドリル等の活用により、一人ひとりのつまづきを可視化し、即時に支援する体制を強化するなど、学力向上策への転換が求められます。

不登校については、出現率が高止まりしているものの、再登校率は基準値を大きく上回っており、専門職や関係機関と連携した支援体制の成果が認められます。今後は、初期対応や予防的支援を一層充実させることが重要です。

また、基本的な生活習慣の定着や教育環境の保全・運営は概ね良好であり、特別支援教育における外部支援ツールの活用や医療的ケアの開始は、学びのセーフティネットを具体化する取組として高く評価できます。

3 生涯学習の促進について

令和6年度の生涯学習施策は、創建1300年記念事業を契機に、市民の文化芸術への関心や学習機会への参加を高めました。アンケート結果では、「文化芸術の直接鑑賞をしている市民の割合」が64.7%と基準値(53.3%)を大きく上回り、「文化芸術活動をしている市民の割合」や「生涯学習施設を利用している市民の割合」も向上しています。これは、多彩な記念事業が市民に広く受け入れられた成果であり、高く評価できるものです。さらに、「学習機会に満足している市民の割合」は90.0%と基準値(88.3%)を上回り、前年度(88.1%)からも改善しており、施策が市民の実感として評価されていることがうかがえます。

一方で、「学習成果を社会に生かしている市民の割合」は66.1%にとどまり、前年度(67.3%)からわずかに減少しました。今後は、大学・企業との連携や市民活動サポートセンターの機能を強化し、学んだ市民が「教える・創る・支える」側へと回るなど、「学び」を地域活動や自己実現へ結び付ける仕組みの強化が課題です。

4 市民スポーツ社会の促進について

市民スポーツ施策は、運動・スポーツ機会への満足度が85.0%と高水準を維持し、教室・大会参加者数も9,438人（基準値5,330人）と高い水準にあり、多世代交流や地域資源を生かした取組は一定の成果を上げていると評価できます。

一方で、週1回以上運動している市民の割合は44.4%と、前年度（49.4%）から低下しており、日常的な運動習慣の定着が課題となっています。社会体育施設の利用者数が伸び悩んでいる背景には、施設の老朽化や利便性の課題があると考えられます。現在進められているスポーツウェルネス施設の整備は合理性がある一方、拠点化による利用格差への配慮が不可欠です。アクセス手段の確保や専門スタッフによる「出前講座」の開催等、移動が困難な層を含め、誰もが参加しやすい環境整備が求められます。今後は、満足度に加え、運動習慣の定着や公平な利用環境を重視した施策展開を期待します。

5 文化財の保護と活用について

文化財の保護と活用は、教育振興基本計画の目標に沿って着実に進められています。令和6年度は、創建1300年を契機として、保存を基盤にしつつ、文化財の価値を発信し、市民参加につなげる取組が大きく前進しました。

「市の歴史と文化を身近に感じている市民の割合」は令和6年度に66.4%となり、前年度から3.3ポイント上昇し、基準値（55.2%）を大きく上回る結果となりました。これは、文化財の調査・保存、活用、普及啓発を一体的に進めてきた取組の積み重ねによるものと評価できます。

多賀城碑の国宝指定や南門復元、デジタルコンテンツの制作・活用、市民参加型イベント等の取組は、文化財の「見える化」と理解促進、市民参画を進め、文化財を「自分たちの誇り」として再認識させるものであり、高く評価できます。

今後は、来訪者数等の量的指標に加え、市民の理解度や愛着の変化といった質的評価の導入を検討し、持続的な活用につなげていくことが重要です。学校教育との連携を含め、文化財を地域の誇りとして持続的に生かす仕組みづくりを期待します。

6 総括的意見について

令和6年度の点検・評価を通じて、本市の教育施策は総じて着実に推進されていると認められます。特に、創建1300年を軸とした文化・生涯学習の振興および、個別支援が必要な児童生徒への包摂的な対応は、先進的な取組として評価に値します。

一方で、中学生の授業理解度の向上、運動習慣の定着、不登校への予防的対応、学習成果の社会還元などの課題も明確になっています。

今後は、「量的成果から質的充実へ」、また「受動から能動へ」の転換を図るため、各施策を点ではなく「学びの循環」という線で結ぶ横断的な連携を一層強化することを期待します。

IV 資 料

多賀城市教育基本方針

教育基本法の精神に基づき、ひろい心、健やかな体、豊かな人間性と創造力を備えた児童生徒の育成を目指し、幅広い知識と教養を身に付け、真理と正義を求める心を持ち、自主・自律と公共の精神に満ちた人格の形成を図る。

あわせて、市民が「日々のよろこびふくらむまち 史都 多賀城」の実現に向け、夢と希望が輝く、誰もが成長できるまちづくりのために活動できる環境整備に努める。

令和6年度教育重点目標

1 学校・家庭・地域の連携による教育力の向上

子どもの健全な育成のためには、学校、家庭、地域などの多様な主体がそれぞれの特性・能力を生かしながら、互いを尊重しつつ、対等な立場で協力しあい、ともにその環境づくりに取り組んでいく必要がある。

地域学校協働本部と学校運営協議会（コミュニティ・スクール）を両輪として地域と学校との協働をより一層推進することで、学校と地域住民等が目標やビジョンを共有し、地域と一体となって子どもたちを育む「地域とともにある学校づくり」を目指す。

このため、次の施策を行う。

(1) 学校・家庭・地域の教育連携・協働の推進

- ア 地域学校協働本部を中心とした、地域学校協働活動のより一層の連携・情報共有
- イ 学校支援活動の実施及び学校支援ボランティアの育成、活動支援
- ウ 地域教育力向上事業の実施（防災キャンプ等）
- エ 放課後子ども教室の実施及び運営スタッフの育成、活動支援
- オ 家庭教育支援チーム等と連携しながら家庭教育事業の実施

(2) 青少年の健全育成

- ア 街頭巡回指導の実施
- イ ジュニアリーダー、次世代リーダーの育成支援
- ウ 青少年活動団体への補助
- エ 成人式～二十歳を祝う会～の実施

2 学校教育の充実

これまでの社会は、明確な課題に対して何が正解かを迅速に判断することが求められ、教育も正解は何かを求める形が主流で進められた。しかし、科学技術は急激に変化し、AIが近い将

来現在の仕事を奪うとの予測が実感されるほど、社会のありようは激変を続け、未来は混沌としている。

このような社会の課題解決は、正解が未知の中、正解が複数あるのではないかと思われることから、自分や自分を含めた皆が領ける解＝納得解を生み出していく学びが強く求められる。また、デジタル技術の浸透により、あらゆる場でのDXが進められていることから、日々変化する社会における新たな教育の在り方について、真摯な対応が求められる。

学校現場では、これまで磨き上げてきた指導スキルを活かしつつ、一方向の一斉授業を改め、主体的対話的で深い学びへ改革する取組みが行われてきたが、未だに一斉授業から離れられなかったり、新しい学びの理解が十分ではなかったりする授業も散見され、学校における学習指導に関する意識改革を具体的に進める方策が必要である。また、家庭・地域に向けて、学校がめざす教育の具体的な姿を発信すると同時に、理解を進める手立てが必要である。

市教育委員会は、そのめざす姿と方向性をもとに、多賀城市教育振興計画を基盤に、子どもたちがこれからの時代を主体的に生き抜き、よりよい未来の創り手となれるよう、以下の施策を進めていく。

未来に向かう学びの基本方針

- 一人一人が夢中になり、没頭できる授業づくり
- 心理的安全性のある学校づくり
- デジタル・シチズンシップの授業づくり

(1) 未来を生きる確かな学力育成のための授業改革

- ア 授業改善を図るための授業の根幹となる評価基準の共有と児童生徒への目標としての提示
- イ 「子どもたちの学びの状況を客観的に把握した事実」に基づいた授業改善
- ウ 個別最適な支援を行うための「多層的な支援」(※注1)の実現
- エ 自立の基礎を養う「スタートカリキュラム」(※注2)の適切な運営と実態に即した改善
- オ 学校・地域の特色を生かした探求型の学習の位置づけ
- カ 主体的な課題解決ツールとして小学校高学年までにICTの文具化の実現
- キ 自らの命、他者の命を守る防災教育の推進

(2) 未来を生きる豊かな心の育成

- ア 児童生徒の心理的安全性の実現
- イ 一人に任せずチームで取り組む生徒指導の徹底
- ウ 様々な教育のニーズに対応する全職員・全教室における特別支援教育の充実
- エ 学校内外の多様な学びの場・居場所との連携・協働の実現
- オ 福祉部署・福祉関連機関との連携による家庭への啓発、家庭との協働

(3) 健やかな体の育成

- ア 感染症に対する理解と主体的な感染予防習慣の徹底
- イ 自分に合った運動との出会いの機会の創設と適切な運動習慣の確立
- ウ 健康と安全に関する自己管理能力の育成と基本的生活習慣の形成
- エ 給食センターと学校の連携による食育の推進

(4) 教育環境の保全と運営

- ア 「地域とともにある学校」をめざす学校運営協議会（コミュニティ・スクール）の設置
- イ 各種支援員との適切な連携体制の確立

- ウ 教育改革と教職員の働き方改革の一体的な推進
- エ 未来に向けた部活動の在り方に関する検討と方針作成
- オ 学校施設の計画的な整備と日常・定期点検に基づく適切な修繕
- カ 小中学校通学区域の適正化
- キ 学校給食に係るハード、ソフト両面の安全確保
- ク 学校外の機関の専門性との連携による、より良い教育の推進

(※注1)

- ・多層型支援システムの理解と授業のユニバーサルデザイン化
- ・学年によるケース会議の設定

(※注2)

- ・ひらがな音読調査（スクリーニング検査）の実施と活用
- ・実態や特性に応じた学習活動の位置づけ
- ・生活科を中心とした合科的、関連的な指導

3 生涯学習の推進

社会環境が大きく変化する中であって、賢く、楽しく、生きがいを持って暮らすためには、生涯を通じた学びにより、「生活の質」を高めていくことが大切である。そのため、生涯学習の拠点となる公民館や図書館などの社会教育施設においては、市民が学び、また、それを通じて交流する場としてふさわしい管理を行っていく。

また、多様な学びのニーズに対応した学習メニューを用意するとともに、利用者が自らの課題に気づき、解決する学びを支援することにより、その学習成果を適切に生かすことのできる知の循環型社会の形成を推進する。

指定管理者制度を導入している生涯学習施設においては、民間企業や地域の市民団体の強みを生かし、「学び」の深化を目指す。

このため、次の施策を行う。

(1) 学びと成果発表の機会の確保

- ア 公民館等における社会教育講座の開催
- イ 図書館における読書と学習の場の提供、各種イベントの開催
- ウ 視聴覚ライブラリーの運営
- エ 子どもの読書を促進する学校図書館の支援
- オ 学習の成果発表の機会となる文化センターまつり、山王地区公民館まつり、大代地区公民館まつりの開催
- カ 生涯学習活動を支援するための生涯学習活動費への補助
- キ 生涯学習団体等への補助

(2) 文化芸術の振興

- ア 文化センター等における芸術鑑賞機会の提供
- イ 市民音楽祭等の音楽イベントの実施
- ウ 文化芸術振興団体等への補助

(3) 生涯学習施設の運営

- ア 施設・設備の適正な維持管理
- イ 利用者サービスの充実

4 スポーツの振興

市民の健全な心身と健康の保持・増進を図るため、スポーツ活動を促進し、多種目・多世代・多目的で作る市民スポーツ社会を実現する。そのため、総合型地域スポーツクラブとの連携・協力により、多様なスポーツ事業を実施し、人と人との交流や地域間の交流をとおり、活気あふれる元気なまちづくりを推進する。

このため、次の施策を行う。

(1) スポーツ機会の充実

- ア 社会体育施設等におけるスポーツ教室等の開催
- イ 学校施設を開放してスポーツ振興を図る学校開放の実施
- ウ 全日本実業団対抗女子駅伝競走大会の運営支援

(2) 社会体育施設等の保全と運営

- ア 施設・設備の適正な維持管理
- イ 利用者サービスの充実

5 文化財の保存と活用

本市の大きな財産である文化財が次の世代に継承され、市民が市の歴史や文化を身近に感じることができるまちづくりを推進するため、特別史跡や名勝の適切な保存管理に努めるとともに、市内文化財の整備と活用を図り、認知度の向上を図る。

震災復興のシンボルである多賀城南門等復元整備事業及び周辺整備事業については、多賀城創建1300年、令和6年度の事業完了に向け、南門と一体的に整備する築地塀等の工事を進めるとともにガイダンス施設の建設に取り組む。

特別史跡多賀城跡附寺跡保存活用計画策定事業については、文化財保護法の改正に伴う文化財の活用という新たな視点を含めながら、特別史跡全体の保存、管理、活用、整備について、次期計画の策定を推進する。

歴史遺産保全・発信事業については、多賀城創建1300年に向けて関連性のある企画展を継続的に開催し、本市の文化財の魅力を広く発信することで交流人口の増加を図るとともに、市民が歴史と文化財に触れる機会の充実に取り組む。

特別史跡の保存管理については、良好な史跡景観を維持するため、引き続き適切な管理を行う。

名勝「おくのほそ道の風景地」である興井の整備については、関係各課と連携の上、引き続き水質改善の維持を図り、環境保全を推進する。

宅地造成や住宅建築等に伴う発掘調査については、住民等のニーズに迅速に対応し、文化財保護法に基づく適正な埋蔵文化財の記録、保存を行う。

文化財の普及啓発については、展示会・講座や体験学習等、ニーズに応じた企画を開催し、市民が文化財に触れる機会の充実に取り組む。

このため、次の施策を行う。

(1) 文化財の調査・保存の推進

- ア 埋蔵文化財の発掘調査の推進
- イ 特別史跡多賀城跡附寺跡第3次保存管理計画に基づく公有化の実施
- ウ 地域との連携による史跡地内の景観保全の推進

(2) 文化財の積極的な活用促進

- ア 特別史跡多賀城跡附寺跡の整備促進とまちづくりへの活用の検討
- イ 名勝「おくのほそ道の風景地」及び市指定文化財の活用検討

(3) 文化財の普及啓発の推進

- ア 子どもたちの歴史的な体験学習機会や市民が文化財に触れる機会の充実
- イ 市の歴史・文化の魅力を広く伝える展示会、講座や出前学習等の充実

多賀城市教育委員会
点検・評価報告書（令和6年度事業）
令和8年3月

多賀城市教育委員会事務局教育総務課

〒985-0831 宮城県多賀城市中央二丁目1番1号

TEL 022-368-5021 FAX 022-309-2460

市ホームページURL

<http://www.city.tagajo.miyagi.jp/index.html>

本報告書掲載URL

<http://www.city.tagajo.miyagi.jp/kyoiku/kosodate/tenkenoyobihyouka/tenkenoyobihyouka.html>